

令和4年度  
杉並区次世代育成基金活用事業  
広島平和学習  
中学生派遣事業

報告書



Hiroshima  
—そこに立ち、何を考える—



## Hiroshima —ここから行動をはじめ—

### 目次

はじめに	1
事業概要	2
派遣行程表	3
事前学習会	4
広島派遣	6
事後学習会・成果報告会	9
発表スライド	10
■ A班 派遣報告	11
■ B班 派遣報告	18
■ C班 派遣報告	25
■ D班 派遣報告	32
■ E班 派遣報告	39
私の平和宣言	46
杉並区平和都市宣言	47



## はじめに

杉並区長  
岸本 聡子



杉並区では令和4年度からの新たな取組として、区内の中学生を広島市に派遣することで被爆の実相に触れ、平和の大切さを学び伝えることができるよう「広島平和学習中学生派遣事業」を実施しました。

参加した30名の中学生たちは、グループ学習のテーマ検討や都立第五福竜丸展示館見学等の事前学習を経て、8月5日から7日までの2泊3日にわたる広島への派遣の中で、被爆体験者の講話やそれを踏まえた現地の中・高校生等との意見交換、平和記念式典への参列、平和関連施設の見学など、精力的な活動を行いました。

去る9月4日に勤労福祉会館で実施した成果報告会では、内容の濃いグループ学習の成果報告とともに、生徒一人ひとりが自分事として平和のために取り組む行動「私の平和宣言」について、見事に発表していただきました。

この報告書は、こうした一連の取組を通して、生徒が被爆地広島で直に体験し学んだことを自分の言葉で綴ったものです。

戦争を知らない世代が多数を占めるようになった現在、戦争の悲惨さ平和の尊さをいかに次の世代に語り継いでいくかが大きな課題です。

本事業に参加した生徒たち、また、本報告書をお読みいただいた方々が、改めて平和について考え、平和を維持していく行動につながっていくことを大いに期待しています。

結びに、本事業を実施するに当たり、ご協力いただいた方々、杉並区次世代育成基金を通して本事業を支えていただいた皆様に心から感謝申し上げます。



# 事業概要

## 目的

次世代を担う中学生が、広島を訪れ被爆の実態にふれるとともに、現地の中・高校生等との交流を通し「平和」の大切さを学び伝える。

## スケジュール

区分	日時	内容
第1回 事前学習会	7月 6日(水)午後5時～午後7時	自己紹介・社会科講義・グループ学習
第2回 事前学習会	7月27日(水)午前9時～午後3時	都立第五福竜丸展示館見学・グループ学習
広島派遣	8月 5日(金)～7日(日)2泊3日	
事後学習会	8月22日(月)午前9時～正午	グループ学習
成果報告会	9月 4日(日)午後2時～午後4時	グループ発表・私の平和宣言

## 派遣生 (区内在住の中学2・3年生30名)

氏名	学年	学校名	氏名	学年	学校名	氏名	学年	学校名
ゲイ ソイブ	2	高南中学校	中川 元英	2	神明中学校	村山 颯	3	向陽中学校
玉木 琉琥	2	高南中学校	青木 千紘	3	神明中学校	黒木 姫愛徠	2	泉南中学校
井上 雄斗	2	東田中学校	飯田 咲希	3	宮前中学校	浅井 紗基	3	泉南中学校
大信田 葉土	2	東田中学校	岩澤 優花	3	宮前中学校	小柳 和奏	3	和田中学校
大木 尊陽	2	松溪中学校	飼手 泰成	2	富士見丘中学校	坂井 愛夏	3	西宮中学校
山本 真由	3	松溪中学校	丹野 寧音	2	高井戸中学校	大和 祐介	3	西宮中学校
矢萩 凜子	2	天沼中学校	杉山 響	3	高井戸中学校	渡辺 芽生	2	杉並和泉学園
山縣 優香	3	東原中学校	西山 さくら	3	高井戸中学校	井上 明香	2	高円寺学園
石井 明花俐	2	井荻中学校	中埜 凜乃	2	向陽中学校	山内 拓	2	聖徳学園中学校
山崎 誓	2	井草中学校	加納 若奈	3	向陽中学校	磯貝 美知	2	筑波大学附属中学校

## 引率及び指導者 (8名)

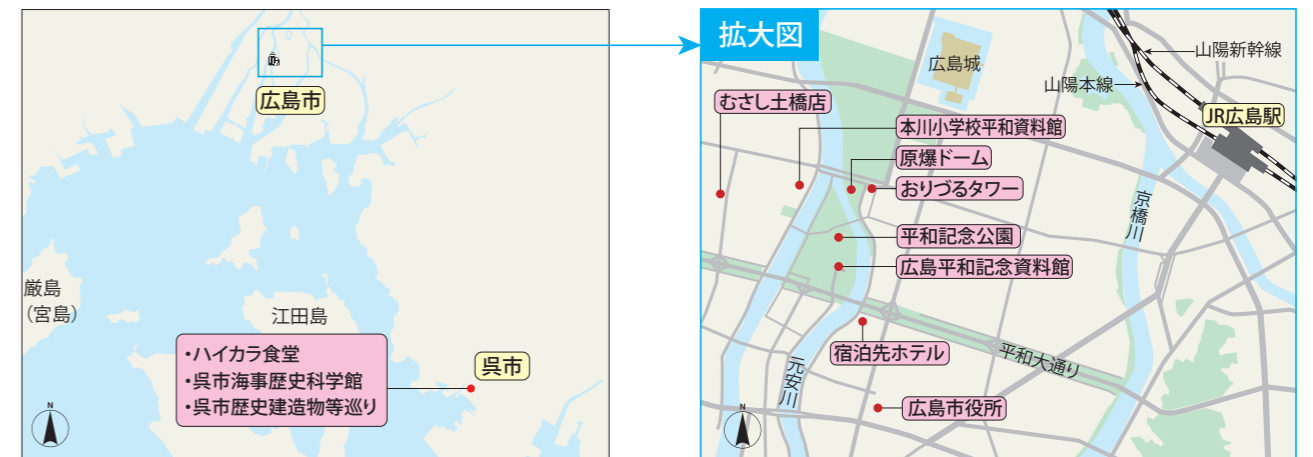
氏名	所属	氏名	所属	氏名	所属
山内 清一	神明中学校 校長	石川 大輔	西宮中学校 教諭	田口 昌実	区民生活部管理課 平和事業担当係長
関野 純一	東原中学校 副校長	都木 求枝	済美教育センター 指導主事	小川 綾子	区民生活部管理課 平和事業担当
岡崎 雅代	荻窪中学校 教諭	阿出川 潔	区民生活部管理課長		



# 派遣行程表

## 派遣行程表 令和4年8月5日(金)～7日(日)2泊3日

日程	時間	内容
8/5 金	7:00	杉並区役所集合・出発式
	8:30	東京駅発(新幹線のぞみ17号) ※車内でとうろう流し色紙の記入
		昼食(車中)
	12:23	広島駅着
	13:30～16:45	「ヒロシマ青少年平和の集い」参加(広島市役所)
	17:00	夕食(むさし土橋店) ※夕食後、グループ学習
	18:40	ホテル着・1日の記録を記入
	22:00	就寝
8/6 土	6:30	朝食
	8:00～ 8:50	「平和記念式典」参列
	9:30～10:30	「本川小学校平和資料館」見学
	11:40	昼食(呉ハイカラ食堂)
	13:00～14:30	「呉市海事歴史科学館(大和ミュージアム)」見学
	14:30～16:00	呉市歴史建造物等巡り
	17:00	ホテル着・1日の記録を記入
	18:00	夕食(ホテル) ※夕食後、グループ学習
	19:00～20:00	とうろう流し見学
	22:00	就寝
8/7 日	7:00	朝食
	8:30～ 9:30	「広島平和記念資料館」見学
	9:30～10:30	「平和記念公園」散策
	10:30～11:30	「おりづるタワー」見学
	12:42	広島駅発(新幹線のぞみ26号)
		昼食(車中)
	16:36	東京駅着
	17:50	杉並区役所着・解散式



## 事前学習会 ①

■日時:7月6日(日) 午後5時～午後7時  
■場所:杉並区役所 第5・6会議室

この日、ほとんどが初めての顔合わせとなった派遣生。一人ずつ自己紹介を行い、その後、引率の社会科教員から「日本の歴史と戦争について」の講義を受けました。後半は、30人が6人ずつの5班に分かれてのグループ学習。みんなで意見を交わしながら、この事業を通して、自分たちが学びたいことを明らかにしていきました。



参加への意気込みなど発表



引率教員による社会科講義



学習課題の説明を受けました

### 派遣生 voice ゲイ (D班)

初めてで緊張したけれど、話しているうちに互いの意見や考えが分かってきて、とてもいい学習だった。



ポストイットを模造紙に貼っていきます



各自が事前課題で考えてきたことをポストイットに記入

### 派遣生 voice 村山 (E班)

今日の学習会のように、人がそれぞれたくさんの意見をもっているからこそ、意義のある平和についての話し合いが行えるのだなと思った。逆に言えば、たくさんの意見の衝突があるから戦争が起きたりする。人間って難しい生き物。



貼り終わったところで、他の班の内容も見学

## 事前学習会 ②

■日時:7月27日(日) 午前9時～午後3時  
■場所:都立第五福竜丸展示館 杉並区役所 第4会議室



### 都立第五福竜丸展示館

終戦間もない昭和29年(1954年)3月、アメリカ力がビキニ環礁で行った水爆実験を契機に、杉並では水爆禁止を訴える全区的な署名運動が展開され、やがて日本全体の運動になりました。

戦後の核兵器の脅威、そして「原水爆禁止署名運動発祥の地」と称される杉並のかかわりを学ぶため、都立第五福竜丸展示館を訪問しました。



グループごとに見学



学芸員による展示説明

### グループ学習

午後は区役所に戻り、グループ学習。1回目の事前学習会で出た意見を基に、班ごとに、学習テーマを考えました。9月4日の成果報告会に向け、その内容、目的、役割分担等をみんなで話し合いました。



### 私達が思う「平和」とは

学習課題である「あなたが思う平和とは」、「その平和のためにあなたは何ができると思うか」をポストイットに書き出しました。班員同士で議論し、グルーピングして整理しました。

- 周りをみて他人の気持ちを考える
- 人権の保障
- 戦争の怖さを共有する
- 今の平和についての状況を知る



- 小さな幸せでもその出来事を大切にする
- 皆が笑顔で暮らせること
- 全ての人に安全な食料がある

E班のまとめ

### 派遣生 voice 矢萩 (D班)

話し合いでは、ライオンはシマウマを食べることが幸せだが人間が感じる幸せとは何かという意見も出ました。人それぞれ幸せに思うことは違うという「平和価値」について考えられました。



### 派遣生 voice 飼手 (C班)

大きなこと(平和)を成し遂げるためには、小さな、当たり前のことを、たくさんの方が成し遂げることの積み重ねが大切。



# 広島派遣

1st day

8月5日 金  
東京→広島

START 07:00～  
杉並区役所発

## ■区役所で出発式



出発式で決意表明



新幹線で約4時間



広島駅到着

12:23  
広島駅着

13:00  
広島市役所着  
13:30～16:45  
ヒロシマ青少年  
平和の集い

## ■ヒロシマ青少年平和の集い参加

広島市の中・高校生ピースクラブが主催する事業に参加。原爆被害の概要・被爆体験講話の聴講後、グループディスカッションを行いました。



全国9自治体から同世代の生徒が参加



ピースクラブによる被爆の概要説明



ディスカッションテーマは「被爆者の思いを受け継ぐ方法」



積極的に発言する杉並の派遣生たち



多くの派遣生が「命を大切に」という被爆者の方の声に胸を打たれた

## 派遣生 voice 磯貝 (E班)

被爆者の方の話を直接聞き、ヒロシマの記憶を忘れて今回の体験を広めて、小さな力でも平和に貢献していきたいと思いました。



17:00～18:30  
むさし土橋店

## ■夕食、グループ学習



夕食に広島名物お好み焼きを食べてパワーチャージ!

18:40

## ■ホテル到着 (ホテルマイステイズ広島 平和公園前)

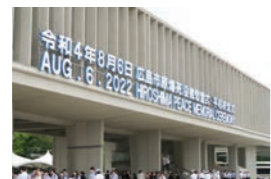
2nd day

8月6日 土  
広島滞在

START 07:10～  
ホテル発  
08:00～08:50  
平和記念式典

## ■平和記念式典参列

広島市による新型コロナウイルス感染症対策(座席制限)のため19名が式典に参列。11名は宿泊先ホテル会議室にてオンライン参加し、それぞれの場所から平和への祈りを捧げました。



会場入口



ホテル会議室にて



3年ぶりに設けられた自治体席に着席する派遣生

移動

09:30～10:30  
本川小学校平和資料館

## ■本川小学校平和資料館見学

爆心地から最も近い学校の本川国民学校(現・本川小学校)は、大きな被害を受けましたが、残存した当時の校舎の一部と地下室が資料館として整備・保存されています。派遣生は被爆による焼け跡が今なお残る資料館の中で、奇跡的に生存した児童(約400名のうち1名のみ生存)の証言資料など熱心に見学しました。



呉市へ移動  
(約50分)



漫画「はだしのゲン」のモデルにもなった小学校



原爆の炸裂地点と広範な被害を表す模型

## 派遣生 voice 山縣 (B班)

現在の、整備されてきれいになった本川小学校からは想像できないくらい被害を受けていることが分かりました。



13:00～14:30  
呉市海事歴史科学館  
(大和ミュージアム)

## ■呉市海事歴史科学館(大和ミュージアム)見学

海軍工廠(海軍が管理する工場・研究所)として発展した呉の歴史とともに、呉で建造された戦艦「大和」の沈没や空襲を受けた戦時下の市民生活など、実物資料を通じて、戦争がもたらす悲劇を学びました。



10分の戦艦「大和」



施設職員による大和講座



グループで見学



呉湾をバックに

14:30～16:00  
呉市歴史建造物等  
巡り

## ■呉市歴史建造物等巡り

かつて軍港として栄えた街に残る戦争遺構などを、呉観光ボランティアガイドの方に説明を受けながら、巡りました。

広島市へ移動  
(約50分)



映画「この世界の片隅に」の舞台にもなっている呉市



17:00  
ホテル到着

## ■夕食、グループ学習(ホテル内)

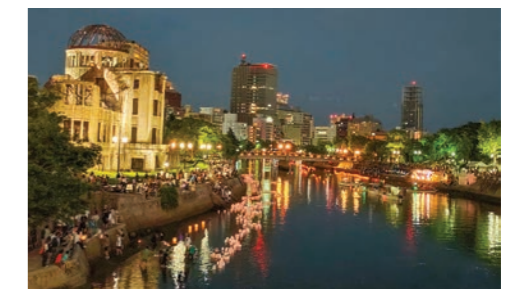
1日目、2日目ともに夕食後の時間も使ってグループ学習を行い、理解を深めました。



19:00  
元安川へ移動

## ■とうろう流し見学

広島のとろう流しは、家族を原爆で失った遺族の方々が供養のために、手作りのとろうを川に流したのが始まりとされています。派遣生が平和への思いを記したとろうも、元安川に流されました。



3rd day

8月7日(日)  
広島→東京

START 08:15～  
ホテル発  
08:30～09:30  
平和記念資料館

■平和記念資料館見学

被爆者の遺品や被災写真などを展示した資料館です。数多くの資料から、原爆の非人道性、原爆被害の甚大さや悲惨さ、被爆者遺族の苦しみや悲しみなど、被爆の実相を学びました。



派遣生 voice 加納 (B班)

平和記念資料館では知ったつもりだった戦争のこと、全くわかっていなかったのだと衝撃を受けました。



移動

09:30～10:30  
平和記念公園

■平和記念公園散策

広島市の中心部にある公園。原爆ドームや平和記念資料館のほか、平和を祈念した数々のモニュメントがあります。派遣生は、かつて広島の中核的な繁華街であったこの地が原爆によって破壊され、公園として生まれ変わったことを実感しながら、碑に込められた平和への思いを巡りました。



広島市観光ボランティアガイドによる説明

原爆死没者慰霊碑

原爆の子の像

移動

10:30～11:30  
おりづるタワー

■おりづるタワー見学

原爆ドームのすぐ東側に位置し、13階の展望台からは平和記念公園や、復興した街並みを一望。また、願いを込めて作った折り鶴を自分の手で「おりづるの壁」に投函し、平和への想いを繋げました。



おりづるの壁

11:50  
広島駅発

12:42  
広島駅発  
16:36  
東京駅着

■帰途

実際に広島を訪れ、原爆や戦争の恐ろしさを改めて知り、平和を願う「ヒロシマの心」を感じた派遣生。3日間の行程を無事に終え、一路東京へ。



解散式で挨拶する代表生徒

17:50  
杉並区役所着

■区役所で解散式

事後学習会

日時:8月22日(日) 午前9時～正午  
場所:杉並区役所 第4会議室



広島派遣から約2週間後、事後学習会を開催。各自が作成した資料を班ごとにまとめ、みんなで一つずつ確認しながら、成果報告会で発表する内容を決めていきました。



成果報告会

日時:9月4日(日) 午後2時～午後4時  
場所:勤労福祉会館ホール (西荻地域区民センター)

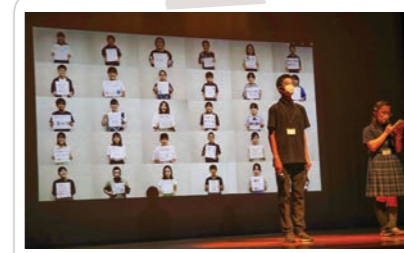


司会進行も派遣生の手で

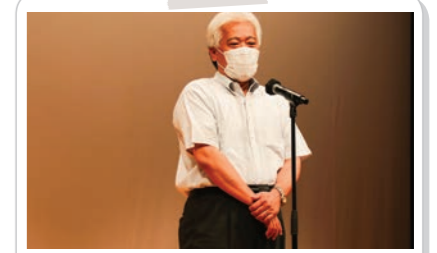
派遣生は、広島で体験したこと、学んだことを報告し、そして平和のために自分たちができるアクション「平和宣言」を発表しました。  
※各派遣生の「私の平和宣言」は、P12以降の個人ページに掲載



班ごとに発表を行いました



私の平和宣言



白石教育長からの講評



来場者 voice

生徒が現地を感じてきた衝撃がダイレクトに伝わってきました。  
来年度もこの事業を実施して、より多くの平和のバトンを繋いでいって欲しいという想いかられました。

伝える活動

派遣生は、所属の学校でも報告を行っています。  
一人でも多くの人に自らの体験を「伝える」ことを実践しています。



# 発表スライド

派遣生が成果報告会で発表したスライドの一部です。班ごとに学習テーマを決め、1人2枚ずつスライドをPowerPointで作成し、発表を行いました。

## A班

想い〜77年の時を超えて〜

A班  
渡神紗星 西山さくら 大和瑛介  
石井朝花 山内航 大塚雄士

**広島原子爆弾の仕組みと被害**

- 爆発が瞬間にひろく広がった
- つらいつらさがあふれた
- 被害者数は約14万人と推定されている
- 被害者の中には子どもや高齢者も多かった
- 被害者の中には今も苦しんでいる人もいます

**被爆者から見た平和とは？**

今日被爆者である山本玲子さんにお話を伺いました。

Q.被爆者から見た平和とは何ですか？  
A. 苦しんでも争いをしない、一人一人が生き抜くこと

**まとめ**

複雑 不安  
苦しい

その思いを1人1人が発信していく

あの日を境に人々は様々な想いを抱き

## B班

**1.核兵器**

- 広島に落とされた原爆は原子爆弾
- 広島は焼け野原になった
- 戦後も広島市の景観は壊れられた
- 核の脅威は現在もなくなっていない
- 世界中の人がいつ核兵器の被害にあってもおかしくない

**建物の被害や影響**

原爆の子の像

- 子供たちが自ら募金活動をした

原爆の灯

- 原爆の灯を燃やさない
- 核兵器が地球上から無くなった方がよい

**3.被爆者について**

当身人体に現れた原爆の影響

- 熱傷、火災、火傷
- 放射線被害→急性障害(嘔吐、脱毛)

大規模な建物倒壊  
中学生が身につけていた服

**広島の状況**

一物資の不足が大きな課題となっていた

**5.今も残る原爆の影響**

広島市の数多くの人々

苦しみや悲しみがあっても復興に向けて立ち上がった

被爆者は、地震のような光景を忘れることはない

**1.爆心地区の小学校(本町小学校)**

原爆落下後、一瞬で400名が、爆風等で死亡する。シャッキングな事実を、小学生が体験したこと。想像すること難しいが、事実である。

## C班

未来へつなぐ被爆者の想い

C班  
山本 真由 中川 元英  
飯田 咲希 駒手 泰成  
中笠 凜乃 黒木 姫愛侖

**なぜ太平洋戦争がおきたのか**

世界地図が赤い部分で覆われていく

中国と戦争を始める

**目標都市**

戦争・原爆の痛みを覚えて、歴史に刻みつけたこと

**黒い雨**

原爆の被害を拡大させた原因

**原爆前と後の変化**

原爆前

- 広島は戦前中国の中心地として栄え、大規模な都市として発展していた
- 広島は戦前中国の中心地として栄え、大規模な都市として発展していた

原爆後

- 広島は戦前中国の中心地として栄え、大規模な都市として発展していた
- 広島は戦前中国の中心地として栄え、大規模な都市として発展していた

**平和のために私たちが出来ること**

- 1つ目: 平和的解決を目指す
- 2つ目: 平和的解決を目指す
- 3つ目: 平和的解決を目指す

**平和のために私たちが出来ること**

- 1つ目: 平和的解決を目指す
- 2つ目: 平和的解決を目指す
- 3つ目: 平和的解決を目指す

## D班

平和な世界を目指して

過去を振り返り未来へつなげる 私たちに「今」できること

目標: 平和な世界を目指す

**広島市の歴史**

1945年8月6日

原爆落下の瞬間

**第二次世界大戦中 被爆前と被爆後**

原爆は一瞬で命を奪い去ってしまう

**原爆被害者の健康被害**

原爆被害者の健康被害

**リトルボーイ**

原爆の仕組み

**原爆被害者の健康被害**

原爆被害者の健康被害

**平和のために私たちが出来ること**

平和のために私たちが出来ること

## E班

ヒロシマから繋ぐ平和の絆

平和の絆

**広島**

高さ: 3m 直径: 0.7m

高さ: 4t

高さ: 3.25m 直径: 1.52m

高さ: 4.5t

**原爆被害者の健康被害**

原爆被害者の健康被害

**原爆被害者の健康被害**

原爆被害者の健康被害

**被爆した建物**

被爆した建物

**世界における核兵器の存在**

世界における核兵器の存在

**【平和のために私たちに出来ること】**

平和のために私たちに出来ること

# Group A

本当にただただ二度と戦争を起こすまいと  
もうあの光景を絶対に繰り返してはいけないんだ



## 学習テーマ 「想い〜77年の時を超えて〜」

77年の時を超えて私たちは「平和への想い」を抱いています。  
そして私たちはその想いを発信していくことが大切だと考えます。  
方法は様々ですが、1人1人が普段からできることを行い、  
戦争を経験された方々や、自分たちの未来のためにも  
今こそ行動していくべきだと感じています。



## 1 学習テーマ 想い～77年の時を超えて～

僕たちA班は、「想い～77年の時を超えて～」というグループテーマだったので、様々な想いを知ることができました。被爆体験者からは、「核兵器をなくしてほしい」「戦争を繰り返してはならない」という、核兵器廃絶や、平和を願う想いを知ることができました。また、77年たっても核兵器がなくなる理由を考えるきっかけになりました。

## 2 感じたこと、学んだこと 本当の平和

平和記念式典に参列していた人が話していた中でも、国連事務総長のアントニオ・グテーレスさんが挨拶で話していた、「人類は、実弾が込められた銃で遊んでいるのです」という言葉に大きな衝撃を受けました。核兵器が地球上に存在する限り、それは本当の平和とは言えません。本当の平和を実現させるためには、核兵器を完全になくさなければなりません。

しかし、初の原子爆弾が投下されてから77年がたった今でも核兵器を持つ国があります。なぜ核兵器を持つのでしょうか。核保有国が核兵器を持つ一番の理由は、別の国から自分の国を守るためだと思います。自分の国を守るのは、恐怖心や不安があるからだと思います。まずは相手のことをよく知り、主義主張などの違いを理解することが大切だと思います。そのためには想像力と共感力が必要だと思います。また、相手に自分の国のことをよく知ってもらうことも重要です。自分の国のことをよく知ってもらうためには、伝える力、対話力が必要です。

77年前の人類は、こうした力を活用できなかったせいで、戦争という間違っただ道に進んだのではないのでしょうか。過ちを繰り返さないためにも、まずは身近な生活で、想像力や共感力、対話力を使っていききたいと思っています。



川面で光る燈籠



私の平和宣言

自分の考えを、クラス全員に共有して、広げる

この平和宣言にした理由として、一つ目は、伝える力、対話力を使えるからです。対話力を日常的に使っていけば、自分のことをもっと相手に理解してもらえて、相手の誤解などを防げると思ったからです。

二つ目は、いろいろな人に共有することで、新しい考え方に会えると思ったからです。色々な人の意見を聞き、自分のことに置き換えてみて、今自分に何ができるかを考え、それを実行していこうと思ったので、この平和宣言にしました。

## 1 学習テーマ 想い～77年の時を超えて～

私たちは派遣事業の1日目に「ヒロシマ青少年平和の集い」に参加した。そこで実際に被爆した方の戦争に対する想いなどのお話を聞くことができた。被爆者の平均年齢が84歳を超え、実際に被爆した方から直接、当時の様子を聞くことが難しくなり、今の世代で最後になるのではないかとされている。そこで、私たちが聞いた被爆者の想いや願いを発信していかなければいけないと思う。

## 2 感じたこと、学んだこと 戦争のない世界を目指して

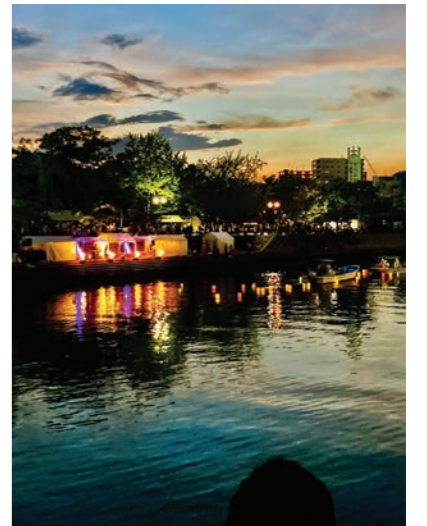
私は戦争とは何か、そもそもなぜ戦争は起きるのか疑問に思った。そこで私は、戦争の原因は身近にある喧嘩と似ているのではないかと考えた。喧嘩は大体価値観の違いから生まれる。ということは、戦争も国同士の価値観の違いから生まれるのではないかと考え、次にどうしたら価値観の違いを知り、認め合えるのかを考えた。そして、国同士の交流を増やし、お互いの価値観を知り、認め合う機会を作れば良いのではないかとこの考えに至った。

広島に原爆が落とされてから77年。今でも世界で戦争は続いている。現に、ロシアはウクライナに戦争を仕掛け、たくさんの人々が亡くなった。

今回の派遣事業の中でも印象強かったのは、平和記念資料館である。当時のリアルな写真や血の付いた服、溶けたガラスなど当時の様子を想像させるものばかりが展示されていた。

こうして形に残れば「次の世代は話を直接聞くのは難しいかもしれないが、形として残したり映像にして残したりすれば、よいのではないか。」という意見が「ヒロシマ青少年平和の集い」のグループディスカッションで出た。ほかにも小さい子なども学べるように絵本や、アニメを作る、音楽を作るという意見も出た。

このように目で見えるものや目に見えないもので残し、次の世代へ、そしてまた次の世代へ伝えていけたら良いと思う。



みんなの思いを乗せて流れる灯ろう

私の平和宣言

SNSで平和について発信する

「日本だけでなく世界中の国のみんなが平和に当たり前の生活をしてほしいし、自分も毎日当たり前の生活がしたい」

これは私だけでなく世界中のみんなが願っていること。だからSNSの#(ハッシュタグ)に参加して今回学んだことなどを広めて戦争が少しでもなくなればいいと思います。

実際に平和をキーワードとしたハッシュタグキャンペーンがあるので、少しでも多くいろいろな人に参加してもらいたいです。





## 1 学習テーマ 想い～77年の時を超えて～

被爆者の方をはじめとした、77年前のあの日この地で生きていた人々の想い、二度とあの日の悲劇を繰り返すまいと誓うあの日から77年後の人々の想い。本当にたくさんの人々の想いに触れて、教科書で見る「歴史上の出来事」でもなく、ネットで見る「画面上の出来事」でもなく、目の前の人語る、その言葉の纏う空気が、言葉にするのは簡単だけれど、本当にただただ、二度と戦争を起こすまいと、もうあの光景を絶対に繰り返してはいけないんだ、ということを感じた。

そして、私たちはあの日人々が抱いた想いを世界に発信していかなければいけない。なぜならまだこの世界には、大切な人を失った悲しみと、明日への不安で泣いている人がいるからだ、この夏たくさんの人々の平和への想いに触れ、平和の尊さ、平和について考えることのできるこの日々を温かさを学び、感じた。

## 2 感じたこと、学んだこと 時を超えた、その先に

「想い」は言葉にすると、どこか軽く聞こえてしまうと思っている。だからその想いを歌にしたり、行動で示したりするんだと考えている。被爆者の山本玲子さんは「人はアニメのように生き返れない」「戦争は良いことなんてない」と語り、私たちに「大人になってほしい」と言って講話を終えた。

平和記念式典での「平和への誓い」では広島に二人の小学生が「自分が優位に立ち、自分の考えを押し通すこと、それは、強さとは言えません」とまっすぐと前を見据え語り、「世界中の人の目に、平和な景色が映し出される未来を創るため、私たちは、行動していくことを誓います。」と言って誓いを終えた。あの日の想いは、77年の時を超えていた。その想いは、歌にのせなくとも、想いをのせた言葉自体に纏う空気が平和の尊さを叫んでいた。

私たちはどこか世界平和なんて実現されないだろうと思っているところはないだろうか。私は思っていた。結局どこかで誰かは泣いているものだ。でも広島で見たあの、世界から集まる色鮮やかな鶴を見て、そんなことはないと思った。いつか人種も性別も関係なく、平和と幸せを分かち合える日はきっとある。そんな日を待ち続けるのではなく、一日でも早く自ら掴めるように、私は、私たちは、この広島で学んだことを発信していかなければと感じている。



被爆した小学校に集まる折り鶴



## 自分自身と向き合う

平和を実現する時に、相手を受け入れることはとても大切で、でも誰かを知るためにはまず、自分自身のことを知らなければいけないと思います。それは簡単なことではないけれど、そうありたいと思って行動することがきっと大切なことで、そうやって一人一人が考えられることこそが平和に繋がると思ったからこの宣言にしました。

## 1 学習テーマ 想い～77年の時を超えて～

このグループテーマから私が学習したことは2つあります。

1つ目は「平和への想いはどの世代も同じ」ということです。戦争を経験された方もそうでない方も、大きくまとめると平和とは「争いがなく当たり前の生活ができること」と考えていることが分かり、様々な視点から1つの目標に向かって進んでいることを改めて実感することができました。

2つ目は「意見を共有することだけでも想いはどんどん拡散されていく」ということです。グループで話し合う前は人に語りかけて共有することで何か効果があるのか、また私達には語りかけることしかできないのかと思っていましたが「想い」というグループテーマから発信方法をみんなで考え、語りかけるだけでも相手の心に響き、自分から調べそれをまた伝えるといったことが連鎖していけば想いはどんどん拡散されていくことだと学習することができました。

## 2 感じたこと、学んだこと 平和への1歩

私がこの事業を通して感じたことは、平和な世界を作るために日本だけが過去の出来事を学習するのは違うということです。ニュースなどでは毎年、終戦記念日の前後で戦争を体験された方々取材して放送しています。そこでほとんどの人は、「世界中が平和になってほしいですね」とつぶやくだけで大抵行動には移しません。

また、日本だけが一生懸命学習してもまだ核兵器を保有している近隣国の米国、ロシア、中国には何も伝わりませんし、日本が平和に暮らすために戦争をしないと考えていても他国が同じ考えでなければ意味がないと思いました。そこで、ただ意見を共有するのではなく、世界中で有名なInstagramやTwitterのハッシュタグと翻訳機能を利用して証言動画や写真を投稿したり、総理大臣が他国の人と平和について話し合うことを発展させ、中高生を対象とした話し合いの場も設けたりしたら未来の平和へ1歩でも近づけると感じました。



平和の灯は世界から核兵器が無くなるまで燃え続けます



## 今まで聞いてきた証言を伝え続ける

私は「今まで聞いてきた証言を伝え続ける」ことを宣言します。理由は、戦後77年たち戦争を経験された方々も高齢になってきていて、どうしてもこの事実は風化させてはいけないものだと思うので、まずは聞いたお話を文章や動画に残して今は同世代に、また高校や大学に進学するにつれて範囲を広げてどんどん次世代に伝えていきます。



## 1 学習テーマ 想い～77年の時を超えて～

被爆者の方は「戦争は苦しくても貧しくてもしてはいけない」と語った。

そして、その想いは77年の時を超えて僕たちに伝えられた。

被爆者の高齢化が進んでいる中、被爆者の切なる想いを聞くことが出来た。僕たちは今の世代、そして次の世代へとその想いを引き継いでいかなければならない。

## 2 感じたこと、学んだこと 形式的な平和を真の平和へ

平和とはなんだろうか。「戦争がない状態」「みんなが幸せな状態」など人によって平和に対する価値観に多少の差異はあるだろうが概ねこのようなところだろう。今挙げた2つの解釈は納得できるものの、どこか違和感も覚える僕は、その違和感の正体を突き止めるべく、今回の事業を通して平和の対極にある「悲惨さ」について学ぶことで「平和」の意味を理解しようと試みた。

まず、僕はこの広島平和学習で様々な場所を訪れ、戦争やそして原爆の悲惨さを知ったのだが、その中でもやはり平和記念資料館の展示物には強い衝撃を受けた。開かなくなった目、ミイラのように乾燥した皮膚、道に転がる数々の死体。それらが全て写真で展示されており、戦争の現実を目の当たりにした僕は言葉も出なくなった。

当事業を通して学んだ「悲惨さ」から導き出した「平和」とは、「戦争が『全く』ない状態」、そして「『世界中のみんなが幸せな状態』」のことをいうのだと確信した。

つまり、僕が最初に感じた違和感は「平和」が自国だけではなく世界全てのことを指すという規模についての記述がないということが原因だったのだ。

僕たちは世界規模の平和—つまり「真の平和」の実現のために一刻も早く行動に移さなければならない。そして日本は「唯一の戦争被爆国」という負の冠をそのままにするのではなく、世界に「軍縮」を働きかけることが重要である。僕たちはその手助けをするため事前に世界の人々に対して「平和」というのはなにか、それを浸透させる必要があるのだ。



原爆死没者慰霊碑に刻まれた碑文



私の平和宣言

## 平和のたすきをつなげる

僕は平和を浸透させる必要があると言ったが、具体的にはどうするか。それは「働きかけ」だと思います。杉並区の人々は団結して多くの署名を集め原水爆禁止世界大会を開催しました。このように、一人一人が働きかけ、それを世界中につなげていくことが僕たちの使命であると考えて、僕はこのような平和宣言を掲げました。

## 1 学習テーマ 想い～77年の時を超えて～

「77年前の夏、何の前触れもなく、人類に向けて初めての核兵器が投下され、炸裂したのがあの日の朝です。広島駅付近にいた女性は、凄まじい光と共にドーンという爆風に背中から吹き飛ばされ意識を失いました。意識が戻り、まだ火がくすぶる市内を母を捜してさまよい歩く中で目にしたのは、真っ黒に焦げたおびただしい数の遺体。その中には、立ったままで牛の首にしがみついて黒焦げになった遺体や、潮の満ち引きでぶかぶか移動しながら浮いている遺体もあり、あの日の朝に日常が一変した光景を地獄絵図だったと振り返ります」

平和宣言で広島市長は語り継ぎました。

被爆者の方々の一言一言によって核兵器を持つこと、使うことの愚かさに気付かされた私たちは、今一度被爆者の言葉に耳を傾けます。人間らしく死ぬことも、人間らしく生きる事も許さなかった原爆の爆発と向き合った被爆者とともにその言葉を心と体に刻みつけることができた時、私たちは平和に向けて歩くことができます。

## 2 感じたこと、学んだこと 聞いた、見た、あの日の広島



平和への願い、元安川のとうろう流し

私がこの活動に参加しようと思ったきっかけは沖縄県の平和祈念公園に行き、資料館や平和の礎を見たことから始まります。私の教科書には2行程度しか書かれていなかった沖縄戦でも、その戦争被害は甚大であり、決して数行で表現できるようなものではありませんでした。

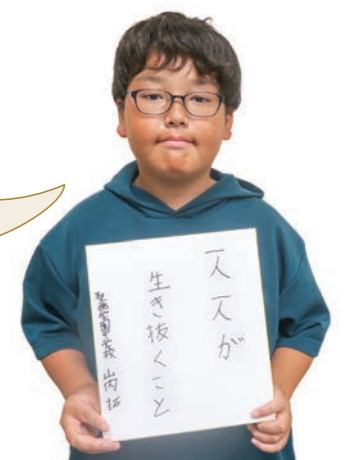
広島の前爆投下も私の教科書には数行しか書かれておらず、当時の状況や原爆の被害がどのようなものだったのかというのをテレビや教科書でしか見たことがありません。

だからこそ実際に自分で見て聞いた、その惨状が胸に刻まれました。何より、ウクライナで戦争が続くなか、被爆者の方の「一人一人が生き抜くこと」という言葉が、強く残りました。

私の平和宣言

## 一人一人が生き抜くこと

核兵器をもつこと、使うことの愚かさに気づき、人間らしく死ぬことも、人間らしく生きる事も許さなかった原爆の爆発と向き合った被爆者とともにその言葉を心と体に刻みつけることができた時、私たちは平和に向けて歩くことができるからです。



## 被爆した方のお話を聞いたときは 思わずメモを取る手が止まるほど聞き入ってしまった



### 学習テーマ

## 原爆が与えた影響～ヒロシマの過去と今～

1945年8月6日午前8時15分、広島で初めて原子爆弾が落とされ何万人もの人々の命が一瞬でなくなってしまいました。

ヒロシマは原爆が落とされた後、戦争や原爆によって仕事を亡くした人や、夫を亡くした女性など、数多くの人々によって苦しみや悲しみが心にある中で、復興に向け立ち上がり、今の広島の光景が出来ていきました。



## 1 学習テーマ 原爆が与えた影響～ヒロシマの過去と今～

1日目、朝7時に杉並区役所に集合後、バスに乗車し、東京駅に向かいました。東京駅からは新幹線で広島駅を目指します。広島駅到着後、「ヒロシマ青少年平和の集い」に参加しました。平和の集いでは、84歳・女性の被爆者からお話を聴くことが出来ました。その方は当時7歳で爆心地から少し離れた場所に居たのですが、爆風で割れたガラス等が身体の何カ所にも突き刺さったそうです。7歳の少女が恐ろしい体験をしたことに、胸が痛くなりました。

2日目、平和記念式典に参加しました。式典独特の緊迫した空気を感じました。その後、爆心地から一番近くにあった本川小学校に行きました。校舎は外部を残して全焼し、400名が亡くなる大きな被害を受けました。

午後からは、広島市から呉市にバスで移動して呉市海事歴史科学館(大和ミュージアム)に行きました。全長260メートルある10分の1サイズの戦艦「大和」を見ました。10分の1の縮小版でも26mもある戦艦に驚きました。とても大きくてカッコ良かったです。



呉市の大和ミュージアムにて

夕方からは、とうろう流しを行いました。平和について自身が書いた水色の色紙の灯ろうに、ろうそくを灯して川に流しました。色とりどりの灯ろうが綺麗でした。

3日目は、平和記念資料館を1時間ほど見学した後、ガイドさんが付き添って僕たちに戦争の事を丁寧に教えてくれました。原爆ドームを近くで見学した後、おりづるタワーに行きました。2016年に完成した地上14階建ての大きな建物でした。展望台から見渡す景色は最高でした。

広島は原爆ドームをはじめ、当時の原爆被害を受けた建物や資料が、被爆当時のまま歴史資料として保存されていました。被爆した歴史があるからこそ、平和を強く望み、平和が長く続くように働きかけをしているのが広島県だと感じました。

## 2 感じたこと、学んだこと 広島についてよく知る

2泊3日の学習を通じて、平和について深く理解するとともに戦争反対という気持ちが強く持てた。

平和につながる行動や活動など、自分が出来ることを少しでも多くやっていたらと思った。例えば日頃から社会情勢を把握する、小さなことでも、人に親切にし、人と揉めないなど頑張っていたらと思った。



### 笑顔で過ごす

広島に行ってより戦争がいけないということが深く理解出来たから、皆が笑顔で過ごせるように努力するため、この宣言にしました。



## 1 学習テーマ 原爆が与えた影響～ヒロシマの過去と今～

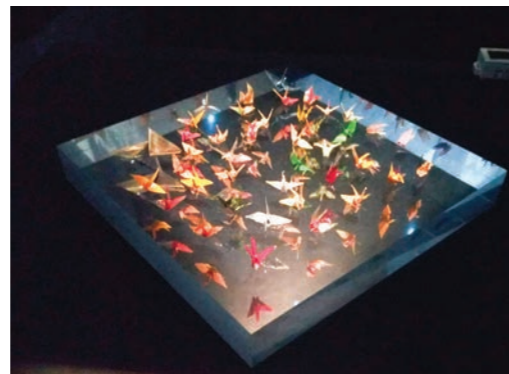
このテーマから一番学んだことは当たり前前の日常は決して当たり前ではないということです。この事業に参加する前は、原爆について、広島と長崎に落ちてたくさんの死傷者が出たことを軽く知っただけだったので、原爆投下後の街の悲惨な状態を知り、とても驚いたし、核兵器の恐ろしさを感じました。

## 2 感じたこと、学んだこと 平和への想い

広島平和学習を通して、平和とは何なのか、をよく学ぶことができましたと思います。

私がこの3日間の学習の中で特に印象的だったのは、平和記念資料館です。原爆の恐ろしさを伝える展示や資料は3日間たくさん目にしましたが、2日間広島の緑豊かな街並みを見てきたからこそ、最終日に資料館内でみたものはインパクトが強かったです。被爆された方がどんな状態だったのかが、形として残されていたものからよく伝わってきましたし、遺留品、遺族からのメッセージ、被爆された方の写真や絵などたくさんの展示を見て、核兵器がどのくらい恐ろしいものなのかを考えさせられました。また、半世紀以上も前のものがたくさん寄贈され、保管されているところに、原爆を風化させてはいけない、後世に伝えていかなければならない、という今を生きる人たちの思いも感じました。

1日目のグループディスカッションでお話をしてくださった山本さんのお話も心に残っています。被爆者の想い、けがをされた方の状態、被爆後の生活など、写真や絵では表せないようなことをたくさん学ぶことができました。今の広島からは信じられないようなお話も多かったです。だからこそ、山本さんが最後におっしゃっていた「命を大切にしてください。」は心に響きました。山本さんの平和への想いと、命の重みを強く感じ、私たちが未来につなげていくことの必要性を感じました。



佐々木 禎子さんが折った鶴



## keep on smiling

Keep on smiling は「いつも笑顔で」という意味です。前向きな気持ちをもって、笑顔でいることは自分の気持ちを明るくさせるだけでなく、周りのひとたちにもよい影響を与えます。それに、争いのある場所に笑顔は生まれません。逆に、平和な場所には笑顔があふれています。全員が心から笑えるような世界を創れるように、まずはここから笑顔の輪を広げていきたいです。この2つの理由から、私は「keep on smiling」を平和宣言にしました。

## 1 学習テーマ 原爆が与えた影響～ヒロシマの過去と今～

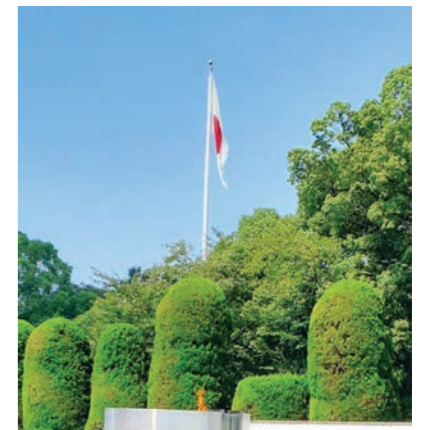
## 【過去】

広島で落とされた原子爆弾の影響で爆心地では、金属やガラスは溶け、街中が焼け野原になった。爆風や熱線によって体中に大やけどや大けがを負い亡くなった人が沢山居た。また原爆による放射能により、亡くなってしまった方が沢山居る。広島に落とされた原爆によって、14万人が亡くなったと言われている。心ない言葉によって精神的に苦しんだ人もいる。

→命や日常が突然奪われてしまった。

## 【今】

今も原爆の後遺症で苦しむ人がいる。被爆者の思いを次の世代に引き継ぐことが課題。被爆者の思いはなくなっていない。核兵器が世界から無くなった時に消される平和の灯はまだ消えていない。



核の廃絶まで燃え続ける平和の灯

## 2 感じたこと、学んだこと 原爆によって奪われた日常

当時12歳の河本梶尾さんは建物疎開作業現場で被爆して亡くなった。家族は、河本さんを何度捜しても行方が分からず、代わりに見つかった学生服で葬儀を行った。その後、家族の元に遺骨が送られた。河本さんの家族はとても悲しい思いをした。

当時48歳の橘高イセノさんは足に傷を負いましたが、比較的元気で周囲の人を励ましていたりしていたが突然体調が悪化。8月22日に亡くなった。

私はこのように原爆について知らない人たちの命や日常が突然奪われたと感じた。また被爆者の話を聞いた結果、私は戦争を繰り返さないため、被爆者の思いを途切れさせないためにも被爆者の思いをなんとかして次の世代に引き継いでいかなければならないと感じた。



## 広島で起きた悲劇を一人一人が知り、伝えていく

広島で起きてしまった悲劇をもう二度と世界中どこでも起こってしまわないようにするためにこの宣言をしました。

今回広島で平和学習をして、広島で起きてしまった悲劇や、戦争の悲惨さ、平和や命の大切さを知ることができました。核兵器や戦争などの悲惨な物を世界から一つ残らずなくすためには、私たち一人一人が広島の悲劇を知り、世界中に発信して伝えていくことで、世界中の平和に貢献することが出来ると思いました。



## 1 学習テーマ 原爆が与えた影響～ヒロシマの過去と今～

この学習テーマにしたことで被爆直後の影響だけでなく、今も原爆が与えている影響について中心的に学習することができ、今後私達がどのようにして戦争や平和について伝えていくかをより深く考えることができました。

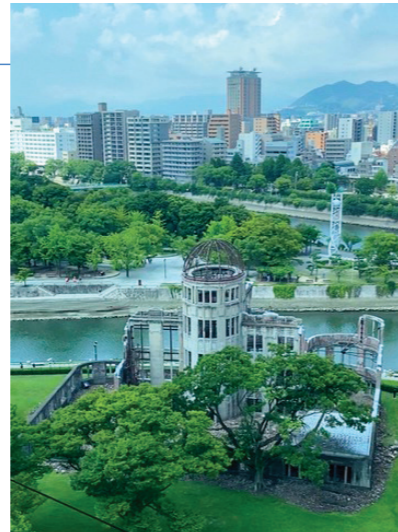
原爆は、町や建物などの破壊だけでなく、人々に大きな心身的影響を与えていて、それは今も深い傷として心に残っていることは原爆が与えた影響の中でも深刻で残酷だと思います。そのように今もまだ残っている影響を絶えることなく次世代に伝えていきたいと強く考えるようになるきっかけになりました。

## 2 感じたこと、学んだこと 心に残り、考えたこと

私はこの学習を通して様々なことを学び、気付くことができました。被爆者の方のお話を聞いたときは、本などの文章では感じることでできない悲しみやリアルさを感じる事ができ、今もまだ辛い思いをしている人が何人もいることを改めて実感しました。

私が一番印象に残っているのは平和記念資料館の展示物やパネルです。言葉には到底表すことのできない悲しみや戦争をしたことに対する怒りなどが大量に溢れました。資料館では、本当に戦争があったのかと疑ってしまうほどの残酷さなどを感じ、感情移入して涙が出そうでした。展示物などを見ていて約14万人の方が亡くなったのに、その中から家族などを探すが沢山のことを知り、本当に悲しくて本当の人の心理を知った感覚になりました。

現在、被害者の方の平均年齢が84歳を超したということを知ったり、世の中から戦争に対する関心や思いが年々薄れてしまっているということも事実です。こんなにも二度とやっはいけない事は無いと思います。私達はどのようにして人々に戦争の愚かさなどを伝えていけばいいのか、また戦争ということに関心を持ち、平和がどれほど素晴らしいことかを皆に知ってほしいという気持ちが広島に行く前より、より深く考えるようになりました。



おりづるタワーからの原爆ドーム



私の平和宣言

何事にも目を背けないこと!

戦争というのは、つい難しく考えてしまって、目を背けてしまう人も多いと思うので、一度だけでも目を背けずに考えてみてほしいという思いと戦争だけでなく、私自身過去や今に囚われず、何事にも他人事で終わらせず、関わってみようと思ったので、このような平和宣言をしました。

## 1 学習テーマ 原爆が与えた影響～ヒロシマの過去と今～

このテーマにしたことで、原爆の影響が今もまだ深く残っているのだと改めて感じました。

1945年8月6日、広島に原子爆弾が投下されてから、苦しみを続けている人たちがいます。

原爆の影響は広島街だけではなく、人の心にも及びました。

平和な未来をつくることは、被爆者の方々の心の傷を少しでも癒すことにつながると私は思います。

このテーマは、今も残る原爆の影響を未来にどう繋げていくのかを考えるきっかけになりました。

平和記念公園にある平和の灯では、今も火が燃えています。この火は、核兵器が地球上から姿を消すまで燃え続けます。

原爆は過去の出来事ではなく、核兵器がこの世に存在し続ける限り、未来にも起こりうる出来事です。このことを、もっとたくさんの人に知ってもらい、平和について考える機会にしてほしいとこのテーマを通して強く思いました。



今も燃え続ける平和の灯

## 2 感じたこと、学んだこと 経験を未来に向けて

私は事前学習として、原爆について本やインターネットで沢山調べました。

もちろん戦争はいけない物だと思っていたし、ニュースなどで戦争の話を見ると、「悲しいな」「辛いだろうな」と思っていました。

しかし、広島に実際に行って学んだことは、そんなに浅い物ではありませんでした。

実際に被爆した方のお話を聞いたときは、思わずメモを取る手が止まるほど聞き入ってしまいました。実際に被爆という体験をしたからこそ、できる表現や言葉の重みに心を揺さぶられました。お話の最後に繰り返し話されていた、「命を大切にしてください」という言葉は今でも印象に残っています。簡単な言葉ですが、心からの思いがこもっているのが伝わりました。

また、平和記念資料館では、戦争の悲惨さと人々の苦しみを目の当たりにしました。それは今まで考えたことがないほど辛く、痛々しいものばかりでした。

苦しみながら亡くなった方や、それをそばで見ている方は一体どんな気持ちでいたのだらうと考えると、私たちが平和な未来をつくらなければいけないと、改めて強く思いました。

私の平和宣言

当たり前を大切に

広島に行き、戦争や原爆について触れたことで、当たり前で日常生活を送れるということはとても幸せなことだと気付かされました。

家族や友達、大切な人と過ごす日常を大切にしていきたいと思い、この平和宣言をしました。



## 1 学習テーマ 原爆が与えた影響～ヒロシマの過去と今～

私はこの学習によって、改めて今生きることが出来る平和の尊さや過去に起こってしまった戦争の醜さに気付くことが出来ました。

私が見た今の広島は、川や緑が沢山あり、とてもきれいに整備されていました。しかし原爆が落とされた時の広島は、爆風によって建物が吹き飛ばされ、その建物の残骸に押しつぶされ血まみれになった人々や、真っ黒に焦げた遺体が川の全体に浮かんでいる光景など、町は地獄のようだったそうです。生き残った人達も火傷跡のケロイドに悩まされ、また放射能による白血病で亡くなった方々もいました。原爆の被害は、落とされた時だけではなく、その後も長い間続きました。

この学習によって、私は、戦争や核兵器の恐ろしさをもっと沢山の人が知ってもらい、一緒に行動を起こしてもらおう必要があると考えました。



原爆投下後の原爆ドーム周辺

## 2 感じたこと、学んだこと 様々な視点から見ると

この広島派遣に参加するまで、私は原爆が落とされるまでの経緯をあまり知らず「なぜ日本の広島と長崎にだけ、原爆が落とされたのだろう」と少ない知識で考えていました。

しかし原爆が落とされるまでに何があったのか、どのような目的があって原爆を使用したのか、その理由を被爆された方のお話を聞き、資料館の展示物などを見たりして、知ることができたと思いました。原爆は、様々な要因が重なり合って落とされたのであり、当時、原爆を落とした側からみれば「戦争を早く終わらせるための兵器」であり、落とされた広島の人々からみれば「広島を破壊し、広島の人々の命を奪った恐ろしい兵器」だったのだと思います。

私はこのようなことから、自分の視点や考えだけで物事を見て行動するのではなく、様々な視点で見て色々な事と接する事で、相手の立場に立って考えることも出来れば、一番良い選択が出来ることに気付きました。

私の  
平和宣言戦争や政治についてよく学び、  
自分から行動を起こしていく!

今まで私は、戦争や政治について考えることが難しく、自分から行動を起こしていませんでした。しかし、今回の学習で、自分が行動を起こすことで救うことが出来る人たちがいるかもしれないと考えることができ、私はこの平和宣言をしました。

Group C

平和な社会を守り、被爆者の想いや願いを未来へ繋ぐ  
これは今ここに生きる「私」に課せられた使命だ



学習テーマ

未来へつなぐ被爆者の想い

戦争や原爆によって、当たり前の日常が一瞬にして奪われ、その後の人生を二度と取り戻せなかった、そんな人たちがいたのです。それはフィクションではなく、77年前に本当に起きてしまった悲劇です。そして私たちが生きている日々の「平和」とは、辛さ悲しみを経験した先人たちが私たちに遺してくれたかけがえのないものだと言えます。



## 1 学習テーマ 未来へつなぐ被爆者の想い

被爆者が経験した事を私たちが理解することは容易ではない。しかし、被爆者の方が語る「命の重み」は、私自身を省みるきっかけとなった。些細なことで「死にたい」と軽々しく口にできてしまう友達との会話も、ロシアとウクライナの戦争に慣れてしまった事も、戦争や原爆の凄惨さを知った今から変えていかなければならない。「平和は悲しみの上に成り立つ」先人たちが遺してくれた平和な社会を守り、被爆者の想いや願いを未来へ繋ぐ。これは今ここに生きる「私」に課せられた使命だ。

## 2 感じたこと、学んだこと 広島平和学習で得た学び

学校の勉強よりも大切な勉強とは何だろう。

広島に行く前は、その答えを見つけられれば良いと思っていた。短かった3日間は、私に無数の学びをもたらしてくれた。戦争や核兵器が引き起こす惨劇のすべては、写真の中の傷ついた少年少女が教えてくれた。平和への祈りを、広島の小学生が声高らかに宣言してくれた。どんな時代の友達も、傷ついたり心を痛めたりしながら、過去の過ち、未来への祈りを後世へ繋ごうとしていた。そのことを自分の心で感じる事ができたというのは、これからの私の行動の原動力になってくれると思う。

8月6日の夜、まだ日が沈み切らないうちに見た灯籠は、確かに祈りを空に届けてくれるような気がした。美しい光が川を染めていく景色は、まだ瞼の裏に鮮明に描ける。8月7日の朝、平和記念資料館で見た傷跡も死体も、まだ私の胸の中の鉛となって残っている。でも、美しさや辛さを感じ、惹きつけられる、目を背けたくなる、そんな当たり前の事の“かけがえのなさ”を感じられたのも大切な学びの一つだったと思う。

自分の生き方を模索する支えとなるような学びを、今回の旅で得ることができた。ひとつの命を有意義に生きるため、あらゆる勉強を大切にしていければよいと感じた。



原爆の子の像



## 私の平和宣言 色々なことにチャレンジする

今回、この広島平和学習に参加することは、ある意味大きなチャレンジでした。他校の生徒と共に学ぶことのハードルは高かったですが、広島に行き、友人と意見を交換できたことは忘れられない経験になりました。

また、ひとつの命を生きることを大切に、自分の人生をより有意義に生きるため、「色々なことにチャレンジする」ことを大切にしていきたいと感じたため、このような平和宣言にしました。

## 1 学習テーマ 未来へつなぐ被爆者の想い

僕はヒロシマ青少年平和の集いに参加し、日本の様々な地域の中高生と交流し「被爆者の想いを受け継ぐ方法」というテーマで話し合い、学習テーマの「未来へつなぐ被爆者の想い」を達成する大きな手掛かりとなることを話し合いました。その内容は「アニメにする」、「本を出す」、「外国に伝える(核をたくさん持っている国)」など様々な意見が出てとてもいい機会になりました。

そこで僕が思ったことは、いくら歴史に残る大きなことでも人々は過去をどんどん忘れていくものだと思います。だんだんと他人事になっていくのだろうなと思いました。このようなことをなくしていけば平和な世の中ができる僕には信じています。

## 2 感じたこと、学んだこと 広島に行って

平和記念資料館には当時の様子を描いた絵やたくさんの人が押し寄せる病院、びりびりに敗れた服、全身にやけどを負った人などの資料があり、どれも残酷でとても直視できるようなものではありませんでした。

このように僕たちが平和に暮らしていることは当たり前ではないと思いました。このようなことを二度と繰り返さないように僕たちにできることをすべきだと思いました。戦争をしたり核を落としたりすると、あのような悲惨なできごとがあることを再認識できるようにすべきです。

とうろう流しは、平和への思いを込めて流すもので様々な灯籠が流されていました。たくさんの人、とくに外国人が多かったです。平和の思いを乗せて元安川に流された灯籠は、とてもきれいでした。



爆心地の近くにある本川小学校



## 私の平和宣言 周りの人を大切にする

人を大切にするのは心の余裕があるからできることだと思います。

余裕があると人がやさしくなって小さい範囲だとは思いますが平和になると思います。それがどんどん広がっていけば核兵器廃絶が実現したり世界に戦争がなくなると思います。



## 1 学習テーマ 未来へつなぐ被爆者の想い

被爆者の高齢化により当時のことを語り継ぐ人々が減少する中で、若い世代である私たちがこれから生きていくうえでどのように伝えていけば良いのか。私は「ヒロシマ青少年平和の集い」で被爆者から直接話を聞くことができましたが、今私たちができることはまず知ることだと考えます。周りに伝えることも大事ですが、あまり知らずに教えられる人はいないと思います。

だからこそまずは、正しく知ってから周りに伝えることが必要だと考えます。そのためには、実際に被爆地を訪れそこで学ぶこと、そしてそれを伝えるためにYouTubeやTikTokなどSNSを利用して、特に将来を担う若い人に知るための機会を作ることが大事だと思います。

## 2 感じたこと、学んだこと 核兵器廃絶、そして平和とは何なのか

私は今回の広島平和学習中学生派遣事業で戦争による被害の実態や被爆者の想い、平和とは何か、そして私たちがこれから平和に対してできることなど多くのことを学びました。

特に平和記念式典で、原爆が投下された77年前と同じ8月6日8時15分に広島で黙とうをささげられたのは貴重な体験でした。当たり前な日常がこの一瞬で奪われたことを考えると想像するだけでもとても恐ろしいと思いました。

そして平和記念資料館では、原爆が投下された後の写真や遺品などが展示されていて深く心に刺さり、少し見ただけでも脳裏に焼き付きました。最近では、ウクライナ侵攻により万が一の核兵器の使用を示唆するような声明が発表されました。この写真や遺品を今核兵器を保有している国もしていない国の人にも見てもらい、核兵器の恐ろしさ、使用することで誰かにとって大切なものを失うことを知ってもらい、核兵器廃絶へ向かってほしいと思います。そして平和とは、世界から戦争がなくなり、世界中の皆が笑って過ごし、かつ食料や飲料、住居、勉強など子どもから大人まで皆が困らずに生活できることだと考えます。



平和の灯ー核兵器廃絶へー



## 18歳になったら選挙で投票する!

私は「ヒロシマ青少年平和の集い」で選挙も平和の一つであると学びました。

最終的に国際関係をよくしていくのは政治家であり、戦争の決断をしまうのも政治家です。そしてその政治家を選ぶのは私たち国民であり、18歳以上には選挙権が与えられます。しかし、近年、若い世代の投票率が著しく減少しています。そこで私は、中学生のうちから選挙に関心を持ち、そのうえで18歳になったら日本を任せられる政治家を選ぶ、それが平和への一歩になるのではないかと考えます。

## 1 学習テーマ 未来へつなぐ被爆者の想い

広島では、被爆体験講話を聞いた。講師の山本玲子さんは、7歳の時に被爆。何気なく、飛行機を見上げていた時だったらしい。山本さんは最後に、「戦争をしても、みんなが辛く、悲しくなるだけで何も良いことはない。これからの日本を背負っていく人には、命だけは大切にしてほしい。死んでもまた生き返る、そんな映像を見ることもあると思う。でも、そんなことは決してない」とおっしゃった。この言葉を聞いた時、私の心には刺さるものがあった。今、ロシアによる軍事侵攻でウクライナは壊滅的な被害を受けている。核兵器の使用を仄めかす発言もある中で、使用させてはいけないという気持ちが、より強まった。

## 2 感じたこと、学んだこと 願い

戦争。それについて、深く考えたことはあるだろうか。私はなかった。ここでは、私が3日間の派遣のなかで学んだことについてまとめたいと思う。

今回、志望動機の記入や面接を経て派遣が決まり、8月6日の夜に流す灯籠に込めるメッセージを考えていたときに思いついたのが、「家族と一緒にいられる世界を守りたい」だった。



ホテルの食堂から見た広島街並み

そして迎えた8月6日。77年前と同じような快晴の空の下、黙祷を捧げた。100を超える国々が世界中から集まるその場で、様々な代表者たちが想いを述べた。しかしその後、2016年現職の大統領として初めて式典に参列した、オバマ元大統領の横にいたSPは、他国からの攻撃があった場合に備えて通称「核のボタン」と呼ばれる、核兵器発射装置を持っていたことを知り、複雑な気持ちになった。

最終日に行った、平和記念資料館。そこには、想像を絶する展示が数多く飾られていた。原子爆弾によって、様々な角度から被害を受けた広島の人々。1年間で約14万人の人が亡くなり、今もその数は増え続けている。大切なのは、ただ戦争をしないということではない。なぜ、戦争をしてはいけないのかを理解することだ。誰だって同じようにいる、家族。その存在は、本当に大きく、重要なものだった。この3日間で私は大きく成長した。ここで学んだことや経験したことは、これから先、生きていく上で大事な糧となるだろう。



## 家族と一緒にいられる世界を守りたい

ある被爆者の体験談をまとめた本を読んでいて気づいたことがあります。それは、たくさんの方が亡くなった中で生き残った全ての人が、必ず諦めかけた時に家族の顔を思い出しているということです。

私は、被爆して亡くなった人たちも、助かった人たちも、現代を生きる私たちも願いは同じ、家族と一緒にいたい。その一心なのだと思います。





## 1 学習テーマ 未来へつなぐ被爆者の想い

私は、この学習テーマを意識しながら平和学習をしてきましたが、被爆者からのお話やどの資料館へ行ってもこの残酷な出来事を昔起こったことで終わらせてはいけないと思いました。なので、この学習テーマのように私たちが想いを後世に繋がないといけないと考えました。

## 2 感じたこと、学んだこと 戦争という行為の怖さを知って

この事業で、戦争のことについて様々なことを学びました。その中で印象に残っているのは、1日目に参加した「ヒロシマ青少年平和の集い」の際の実際の被爆者の方からのお話です。

「ヒロシマ青少年平和の集い」では、原爆被害の概要説明を受け、その後に、山本玲子さんから被爆体験証言を聞きました。

原爆被害の概要説明では、もともとTの形をしている相生橋が目標だったことだったり、原爆が落とされた時の2つのエピソードだったり、普通の学校に授業や貰っている教科書では詳しく分からないお話を沢山聞く事が出来ました。

ですが、最も印象に残ったのは山本玲子さんからのお話です。山本玲子さんは国民学校1年生(7歳)の時に原爆被害を受けた方で、当時の日本の様子や、原爆が落ちた時の状態などを知ることができました。

例えば、国民学校の先生には教科書は忘れてもいいが、防空頭巾は絶対に忘れてはいけないルールのことや、B29が目に入り、原子爆弾が落ちてきて、太陽のようなものが落ちてきたと思ったなど、原爆投下の瞬間のことをお話ししてくれました。その時、落ちてきたときは爆弾が落ちて来るなんて思いもしなかっただろうし、とても必死に自分の身を守ったんだなと感じました。

更に、山本さんが最後に「今はボタン1つで的確に落とせる時代。戦争はやっても悲くなるだけ。命が一番大切なものなので、大事にしてほしい」と、おっしゃりその通りこの言葉を大切に伝えていった方がいいなと考えました。

また、この事業ではヒロシマ青少年平和の集い・平和記念式典に参加したり、本川小学校平和資料館・大和ミュージアム・平和記念資料館で学んだり、とうろう流し・平和記念公園にある建物を見学するなど、3日間で色々なところに行き学びました。そこで得た学びを通じて、私は、戦争は私たちが思っている以上に危険で怖いもので、そのことを後の世代にも伝えるために色々な人が様々な事に取り組んでいて、そのことを私たちが学んでいかなければいけないと思いました。



## 命を大切に明るく笑顔でいる

山本さんに命が一番大切と言われ、すごく共感したし、楽しい時などいつも明るく笑顔でいると自分の気持ちも明るくなり、周りの人も笑顔になり仲良くできるからです。



平和を願う折り鶴

## 1 学習テーマ 未来へつなぐ被爆者の想い

今回、私達の班では「想い」を中心に学習をしました。実際に被爆した方のお話を聞き、どうやって受け継ぐのだろうと深く考える事も出来ました。この疑問に対して多くの方がSNSで原爆の事を発信していくと意見していました。私はSNSでの発信はもちろん、戦争・原爆について知ることが出来るイベントを増やすべきではと考えました。

また、広島 학교に通っている生徒さんは原爆が投下された日、つまり8月6日は生徒が学校に登校し黙祷をしていると仰っていました。ですが多くの学校はそのような活動を実施していません。このことからやはり1番は被爆された方の気持ちにたってみる事が大切だと思います。今の若者がもっと被爆者の気持ちを理解し次の世代に繋げられるよう、自分もその繋げる1人になれるように被爆した方の気持ちにたたいです。

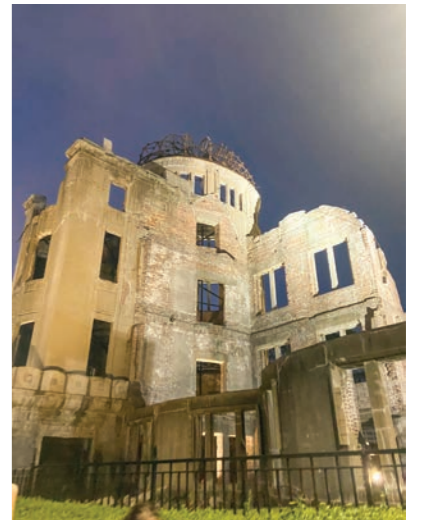
## 2 感じたこと、学んだこと 私達にできる事

私はこの平和学習で様々な事を学びました。

中でも印象に残っている事があります。それは平和記念式典です。式典に参加した際、周りを見てみると沢山の人が式典に参加していました。日本の方々だけでなく外国の方も参加していました。少しずつだけでも日本でも世界でも戦争に関心を持つ人が増えて来ているんだと、嬉しい気持ちもありとても印象に残っています。

約14万人もの人々が原子爆弾で亡き人となった後、あの悪夢を2度繰り返さないために、国会で非核三原則が決まりました。しかし他の国ではまだ戦争が続いている国もあります。それが現実です。世界が平和になりますようにと願っても行動に移さなければ何も始まらないと思います。

この平和学習に参加した私に今出来る事が何か考えるとそれは次の世代に伝えていくことだけです。戦争の悲惨さ、原爆の恐ろしさを前世代の人々が私達に伝えて来たように次は私たちが伝える番だと強く思いました。



原爆ドーム



## 生きている事に感謝し全ての命を大切にします

被爆された方の分まで命を大切に、自分以外の命も大切にしたいという思いで、この宣言にしました。これからも平和な世界が続くように身の回りの平和から意識します。そして平和だと思える日が毎日続くように自分ができる最大限の事をしたいです。



## 日本と世界中の人に「関心」を持ってもらうために 私たち各々が行動することが必要です



### 学習テーマ

## 平和な世界を目指して～過去を紐解き未来へつなげる 私たちに「今」できること～

日本は、唯一の戦争被爆国です。

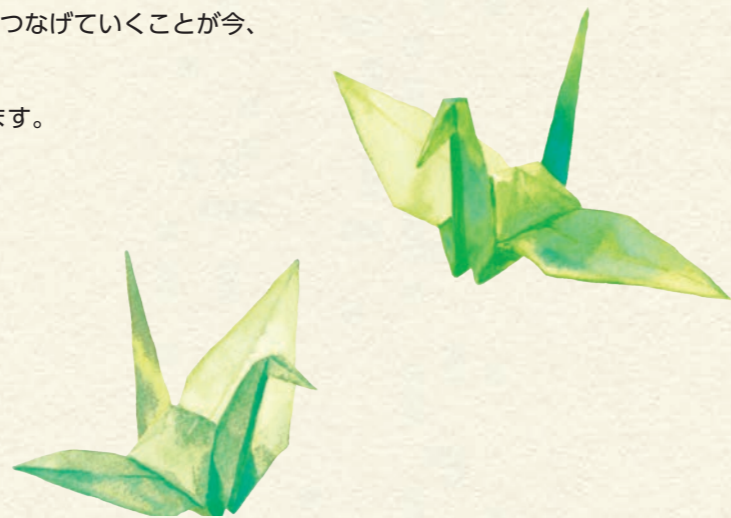
だからこそ、戦争の悲惨さを1人でも多くの人に伝える責務があると思います。

被爆から77年たった今日、私たち1人1人が「平和への祈り」、

「平和への願い」を大切に、その想いを未来へつなげていくことが今、

我々が求められていることであり、昔も、今も、

そしてこれからも普遍的な価値であると思います。



## ゲイソイブ

### 1 学習テーマ 平和な世界を目指して～過去を紐解き未来へつなげる 私たちに「今」できること～

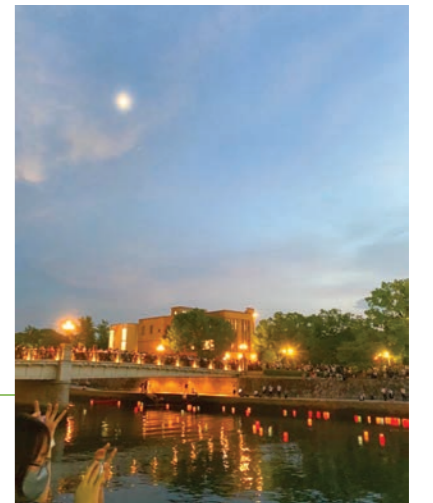
1945年8月6日広島に原爆が投下されました。

約数十万人の人がなくなりました。その原爆について紹介します。

「リトルボーイ」、これが人類に初めて使われた原子爆弾の名前です。約3メートルほどあります。マンハッタン計画によってアメリカが作成しました。そして8月6日広島に投下されました。町は消え去り、死体がそこらじゅうにあります。かろうじて生きている人でも水をくれと足をつかんできたそうです。たった1発で甚大な被害を与えました。

あれから77年、広島に行き、目でしっかり見てきました。そこで班で考えたのは過去をしっかりと学んで、今自分たちにできることを考えて発信しようということです。僕が今できることは、このように原爆の苦しみを感じて終わりではなく、しっかり同年代に発信、伝えていくことなんじゃないかなと思います。僕たちは今できることをテーマにしているので今できるんです。みんなしっかりと学習したら誰でもできます。

平和なんて関係ないとか興味がないとかそのような人達もいるかもしれませんが。しかしそのような人たちにも発信してほんの少しでも興味を持てるような発信をして親から子、子から孫へどんどん未来にみんなをつないでいきましょう。



元安川に流れる数々のとうろう

### 2 感じたこと、学んだこと 見るだけではなく

今回広島平和学習に参加して普段できないことをたくさん体験することができました。まず自主的にほかの人と平和とは何かを話し合うことができました。普段学校などで話し合いをやっても意欲的にできないことが多いですが、これは自主的に参加し学びたいことを学んでいるので、普段よりさらに意欲的に自分の意見を話し合えました。

また、平和とは何かなど今まであまり考えることがなかったことも仲間と深く考えることができ、人生の中でもとても良い体験ができました。



### 毎日誰かを褒める!!

僕は初め、誰にでもできてみんなを笑顔にできることを平和宣言にしようと思いました。それを考えた時、褒められた時ってすごいうれしくてやる気が出て笑顔になっていたと思います。

褒めるってやる側も相手のいいところがわかってどっちもいい気分になると思います。最初の誰にでもできてみんなを笑顔にできるということにとっても当てはまっていました。

自分もいい気分になって相手もいい気分になっていく最高の平和宣言になったと思いました。



## 1 学習テーマ 平和な世界を目指して～過去を紐解き未来へつなげる 私たちに「今」できること～

グループのテーマを通して学んだことは、平和に対する思いが人間中心の考えだけではなかったという事です。戦争がない、差別がないという、人間中心だけの考えではなく、人間の存在が必然的に自然破壊をしているという事実を認識し、自然界の動植物とも共存できる地球にしなければならないのです。人間目線だけで考えるのが本当の平和ではないと気付く機会になりました。

## 2 感じたこと、学んだこと 核の悲惨さ

この事業を通して学んだことは、核の悲惨さです。特に感じたところは、平和記念資料館でした。ここでは、核の恐ろしさを記録するため、被爆した建物のレンガや、三輪車、衣服、被爆者が描いた絵、残した言葉などが展示されていました。

原子爆弾は一瞬にして、広島を破壊しました。僕は実際に被害にあったわけではありませんが、展示物を見ただけでも、被爆した人たちは苦しかっただろうな、悲しかっただろうなと強く感じました。

原子爆弾の残した爪痕は今も残っています。二度と同じ間違いを犯さぬよう、未来につなげることが重要だと思いました。

そして、それをどのような方法でつなげていくかを、グループのメンバーと考えました。多く出た意見は、現代はネットを活用する人が多くいるので、YouTubeやTwitterなどを活用して世界に発信するという事でした。現代流の方法で多くの人々の目に留まるから、いい考えだと思いました。思っただけで終わらせるのではなく、どう伝えるかを話し合えたのはいい体験になりました。



被爆した中学生の遺品の制服



私の平和宣言

毎日心を込めてありがとう!

「ありがとう」と言われて嫌な気分になったり、怒る人はいないと思います。毎日誰かを笑顔にできたら、世界が平和に近づけると思います。友人・知人だけでなく、例えばレジの店員さんへの感謝の言葉を伝えたり、道具や物にも心を込めてありがとうの気持ちを持たりたいなと思いました。

## 1 学習テーマ 平和な世界を目指して～過去を紐解き未来へつなげる 私たちに「今」できること～

日本は、唯一の戦争被爆国だ。だからこそ、戦争の悲惨さを1人でも多くの人に伝える責務があると思う。原爆が落とされ、一瞬にして建物が破壊され、人々は混乱し、尊い命が奪われたという事実。ではいったい何をすれば、ここ広島で起きたことを伝えられるのであろうか？

核のない、平和な世界をつくるには、原爆投下の被害にあった現地に自分の足で出向き、被爆の痕跡や復興の証を見ることで核兵器を用いることの恐ろしさ、平和の価値について学ぶことができる。

被爆から77年たった今日、平和への祈り、平和への願いを大切にし、その思いを未来へつなげる人間でありたい、と強く思う。

## 2 感じたこと、学んだこと 広島現地での学習で考えたこと

この平和学習に参加することで被爆の実態を体験し、改めて平和について深く考えられた。

1日目のヒロシマ青少年平和の集いでは、被爆者の方のお話を聞いた。やはり直接お話を聞くと、とても臨場感・迫力があり、当時の様子を理解できた。だが私はここでふと思ったことがある。「自分が大人になるころにはこの迫力あるお話は聞けなくなるのではないか」、「だからこそ私たち若い世代が次世代を担う人たちに平和の大切さを伝えるべきではないか」と。

広島現地での学習を進めるうちにたくさんのものに出会った。特に印象に残っているのは、原爆ドームである。被爆した当時のまま残っていることにも驚いたが、原爆ドームを「広島の人たちの意思」によって残されていることに心動かされた。別に壊して過去を忘れることもできるのに、「あえて残している」のだ。広島の人たちが、ここで起きたことを発信したいという強い意志があり、強い思いがそこにあることが切に伝わってきた。

また、平和記念資料館では原爆の犠牲となった方が身に着けていた衣服、熱線で焼けた瓶、火災で溶けて変形したガラス瓶や茶わんなど被爆の惨状を伝える資料を自分の目に焼き付けることで戦争の悲惨さを身をもって体験できた。



人々の意思で残された原爆ドーム

私の平和宣言

自分の周りから平和を築く

- ①歴史を学び、命の尊さを知り、戦争の悲惨さを広めることに努めます  
→私たち若い世代が積極的に平和について発信することで次世代の人にも平和の大切さを伝えることができます
- ②自分の周りから平和を築きます  
→平和を実現させるには、1人1人が身近な所から自分の手で平和を築かなければならないと思います
- ③幸せな毎日が送れていることに感謝します  
→幸せな毎日が送れるのは、「当たり前ではない」ということを意識し、感謝します
- ④平和について考え続け、世の中の全ての人々が笑顔でいっぱいになる日を祈ります  
→常に平和とは何か、戦争とは何かを考え、関心を寄せ、心が平安で笑顔になれる日を望みます



## 1 学習テーマ 平和な世界を目指して～過去を紐解き未来へつなげる 私たちに「今」できること～

私たちは「平和な世界を目指して」というテーマから現地では「過去と今の広島を比べて平和を学ぶ」「思いを受け継いで未来へ伝える方法を考える」ことを行いました。

被爆者の方からは原爆投下時の話や被爆前と後の生活が一変したこと、復興の大変さのお話を伺うことができました。原爆と復興、被爆者の方たちの思い、広島の子供たちの原爆への姿勢の違いなど現地に行かないと分からないことばかりで、原爆と平和について多くのことを学ぶことができました。

また、被爆者も数少ない今、戦争や核をなくすために何ができるのかを考え、伝え方を工夫することがとても重要だと思いました。被爆者の話をSNSで発信したり、本やアニメ、映画化したりと皆が身近で「平和」について考えられる環境を作っていかなければいけないということを実地の学生の方やボランティアの方との話を通して考えました。

私は小学校5年間をアメリカで過ごし原爆について知る機会がなかったため、この平和学習に参加して原爆の悲惨さ、平和の有り難さを強く実感することができました。



過去と未来をつなぐ道

## 2 感じたこと、学んだこと 原爆を学び、その後どう後世に伝えていくか

平和学習で印象に残ったことは二つあります。一つ目は「ヒロシマ青少年平和の集い」です。この会では、東京、広島、その他様々な所から来た学生の方と話し合いました。広島では原爆を学ぶ科目があることや平和記念式典の日に登校することに私は驚きました。原爆については、東京では数回授業で学ぶだけ、アメリカでは学ぶことはありません。被爆国の日本で同じように原爆について学べていないのならば世界も同じように学ばない、だからまずは各地域で広島と同じように学ぶ必要があると思いました。

二つ目は平和記念公園です。そこでは、慰霊碑と原爆ドームを直線上に繋ぐ道は「過去を振り返り、未来を見つめる」という意味があること、平和の灯は世界から核がなくなったときに消されることなど知ることができました。その他にも、未来へ被爆者の思いを受け継ぐために様々な工夫がされていること、私たちにもできることがあることを知りました。

日本の中で受け継いでいくことも大切ですが、国際的に知ってもらえなければ何も変わりません。日本と世界中の人に「関心」を持ってもらうために私たち各々が行動することが必要です。日本中の人、世界中の人を巻き込むことで平和な世界が作れると思いました。



## 思いを受け継ぎ、等しく伝える

アメリカでは原爆について詳しく学ばず、日本が真珠湾攻撃をしたから原爆を投下したと伝えられています。しかし、私は「日本も悪いことをしたから原爆は必然だった」という考えがこの3日間を通して疑問に思うようになりました。戦争は意見のすれ違いから起こります。お互いのことを知ろうとしなければ戦争がなくなることはないと思います。

77年が過ぎた今、被爆者は少なくなっています。私たち若者が偏った考えを持たずに学び、思いを受け継ぎ、様々な方法で、地域や国で考えがすれ違わないよう等しく伝えていくことが必要だと思います。

## 1 学習テーマ 平和な世界を目指して～過去を紐解き未来へつなげる 私たちに「今」できること～

私はこの度、区代表で広島平和学習中学生派遣団として広島に訪問し、旅行とも違う学校で得られる経験とは比べ物にならない経験をしました。

事前学習も含めてグループで様々な意見を交換する事で自分にはない価値観を学ぶことができました。我等がグループD班はそうした意見交換の中で

「平和な世界を目指して～過去を紐解き未来へつなげる 私たちに「今」できること～」

このテーマを基に広島訪問での学習内容の指針を取り決めました。

## 2 感じたこと、学んだこと 軍港の発展と、被爆地の悲しみ

私は過去に数度、横須賀にて日本海海戦で日本海軍連合艦隊旗艦を務めた戦艦「三笠」を見学したことがあります。三笠の管理を務めていた年配の方が三笠を「貴重な遺跡」と答えられたのを思い出しました。

横須賀市も大和ミュージアムのある呉市も同じように今も昔も軍港として栄えており、その影響の文化が80年以上たった今でも根強く残っていました。



大和ミュージアムから望む呉港

しかし最終日に訪れた平和記念資料館で展示されていた物は余りにも壮絶なものでした。これらの展示物は忘れられぬ人々の思いの塊だと感じました。私は悲惨なものに対して本来強い性質であるとは思っていたのですが、想像以上の衝撃を受けてしまいました。この私が受けた衝撃を全ての小・中学生に教科書で伝える事は困難だと思いました。こういう面から戦争の原子爆弾の悲惨さを語り継いでいく際の課題の発見にもつながりました。



## 文化の尊重

世界平和は相手国との関係もあり、自分の国だけでは達成しえない目標です。

「文化の尊重」この言葉を私の平和宣言にしたい。これを実際に行動に移していくことが大事だと思います。

相手国の法律の基盤になっている独自の文化・宗教観を尊重しない事や、相互理解不足から、戦争に発展すると過去の事実からも実証され、負の歴史を繰り返しています。

「自分の将来は少しでも他国の文化と日本文化との交流にもつなげられる様な考えを賛同応援出来る立場になりたい。」という事を目標として、この平和宣言を常に心の中に置いておきたいです。



## 1 学習テーマ 平和な世界を目指して～過去を紐解き未来へつなげる 私たちに「今」できること～

私たちDグループの学習テーマは「平和な世界を目指して～過去を紐解き未来へつなげる 私たちに「今」できること」です。実際に広島に行き、当時の資料を見て話を聞き、現在と過去を並べて考えるとより伝わりやすく見やすいものになるのではないかと考えました。

また、班全員の意見をまとめたところ、戦前・戦後の様子、当時の生活から歴史を学び、自らが平和について考え伝えることが大事なのではないかと感じ、このようなテーマにしました。このテーマは多くの言葉をこだわりました。例えば「紐解く」「未来へ」などです。

「紐解く」は過去・現在・未来が一つの紐で結ばれている、過去があるから現在、未来があり、過去がなければ現在、未来がない、こんな意味を込めました。また、「未来へ」は過去のことには引っぱられずに前を向いていこう、明るい未来にしようという意味を込めました。

## 2 感じたこと、学んだこと 現地に行って感じたこと

私は派遣前、広島のことをあまり知らず、考えも知識も漠然としていました。しかし現地に行って他県の方などと話をしたり被爆者の話を聞いたり様々な展示を見たりしたことで考えが変わり、より深く考えることができました。

特に印象に残ったのは被爆者の話を聞いた後にグループディスカッションをしたことです。グループディスカッションを体験講話直後にしたことにより率直な感想で話し合いを進めることができました。また、初めて話す人が多かった中でも全員が自分の意見を3回以上発表し、良い経験になりました。また、その後の様々な展示物の見学の時にも被爆者の話を思い出しながら見ることができました。



一瞬で跡形もなくなった街の様子



### 絶対に3度目の核兵器を使用させず、 当時の思いを永遠に継承していく

広島が被爆したのは今から77年前。そのため、被爆者も高齢です。私はこれを受け継ぎ語っていくのは私たち、若い世代なのではないかと考えました。若いうちから理解しそれを伝えていく、これが私たちに今できる最大の事なのではないかと思えます。

被爆者のお話を聞けるのは私たちの世代が最後かもしれません。まずは家族や友人に話してみたり、学校で全校に向けて発表したりと身近な人に伝えるのが大切なのだと思います。そこで私はこのような平和宣言をします。「絶対に3度目の核兵器を使用させず、当時の思いを永遠に継承していく」。

核兵器は今9か国が保有しています。そのうちロシア、アメリカはどちらも5000発以上の核を持っていて現在起きているウクライナの戦争でもいつこのような核が使われるかわからないと思うとすごく恐ろしいです。世界で唯一原爆が落とされた日本はこの原爆の恐ろしさ、悲惨さを世界に訴えています。理解されにくい部分もあります。このようなことから私は核を使用させないこと、当時の思いを自ら継承していくことを宣言します。



## Group E

### “Hibakusha”という言葉

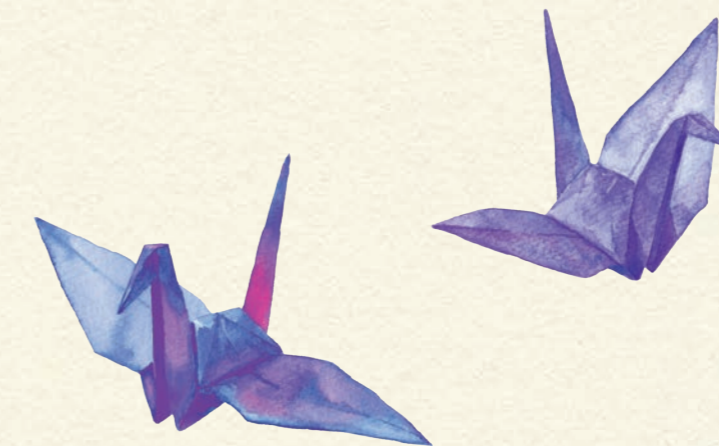
唯一の戦争被爆国に生まれた日本人である僕たちは  
この言葉に込められた思いやその意味を  
強く受け止めなければならないと思った



### 学習テーマ

### ヒロシマから繋ぐ平和のバトン～核とわたしたち～

このテーマに込めた思いは広島・長崎で起こったことを、原爆の本当の姿、そこから分かる平和の大切さをリレーのバトンのようにつなげていってほしいということです。私たちが被爆者の方々から直接体験を聴ける最後の世代だと思うので、今回聴いたことを周りの人たちに広めていきたいと思いました。



## 1 学習テーマ ヒロシマから繋ぐ平和のバトン～核とわたしたち～

私はグループで原爆について学習してきました。広島で原子爆弾について学んだことは、原爆は一瞬にしてたくさんの人の命や思い出を奪っていくということです。広島と長崎に落ちた原爆は形や重さ、原子爆弾に含まれている物質も異なっていました。原爆による火傷や投下後の放射能の混ざった雨に打たれたことによる体調の悪化など、たくさんの健康被害で被爆者の方々は苦しんできたことを知りました。投下近くの建物はほとんど倒壊し、鉄筋コンクリートなど頑丈な建物も形だけを残していました。このような事が二度と起こらない世の中であってほしいと心から思いました。

## 2 感じたこと、学んだこと ヒロシマに投下された原子爆弾～自分自身が感じたもの～

私は今回ヒロシマにいき原爆の恐ろしさについて学んできました。小学校の時も被爆者の方のお話を聞いたことがありますが、平和記念資料館や本川小学校平和資料館などをまわって原爆の威力や原爆による被害写真や建物などから1発だけで十数万という人が亡くなり、建物もほとんどが倒壊するほどの威力があることに怖さを覚えました。

原爆による後遺症や何年も平気だったのに急に病気になったりするなど、原爆投下後も大変なものだと資料を見て感じました。他にも大和ミュージアムに行き、戦時中や戦争前後の呉市についてみて、日本の技術力は高いことを知りました。そして、その技術が戦うためではなく現代を生きていく中で役立っているということを知りました。

広島に行って原爆がこの世界に存在する限り私たちは常に危険にさらされていると思いました。1発で何万もの人が亡くなる兵器が1万以上あるのはとても危険ですし、もし核兵器が使用されれば、広島や長崎以上の被害になると思います。だからこそ、核兵器廃絶ができる限り近い未来に実現してほしいと今回の派遣学習で思いました。



廃墟になった広島



私の平和宣言

## 核兵器のない平和な世界

核兵器が無くなれば世界が完全に平和にはなるとは言えないけれど、数万というたくさんの命が一瞬にして失われることはありません。

また、たくさんの人の命が危険にさらされることもなくなるので、みんな笑顔に日々の生活を送れるのではないかなと思ひ、「核兵器のない平和な世界」を私の平和宣言にしました。

## 1 学習テーマ ヒロシマから繋ぐ平和のバトン～核とわたしたち～

日本は今年で戦後77年を迎え、被爆者の平均年齢は84歳。当時のことを語るができる方々は年々減っている。私たちのグループでは、原爆を時間の進みとともに薄れないように、その事実を沢山の人に伝えるということをテーマに学習した。

私は被爆した人々について調べ、原子爆弾の影響は当時生きていた人だけではないこと「体内被爆児・原爆二世」の存在を知った。それは原爆より後に生まれた人のことで小頭症を持って生まれたり、成長してから病気を発症したり身体的な影響や、差別など様々な被害をもたらした。私は77年たっているにもかかわらず今もたくさんの人に危害を加え続けている原爆・核兵器の一度使ったら取り返しがつかない怖さを知った。

## 2 感じたこと、学んだこと 自分の目で見ること



原爆投下直後の広島市の模型

私はこの平和学習に参加するまで、戦争に関するものなどを実際に見ることがなかった。今回広島に行って、たくさんの当時のモノを自分の目で見ることが出来た。

それらを見て感じたのは「自分の知っていることはその出来事の一部だけ」ということ。私が学校で勉強したこと、事前学習で自分が調べたことで戦争について、広島で何が起こったのか分かっている気になっていた。しかし、広島で実際に様々な資料や当時の写真を見てその悲惨さに私は大きな衝撃を受けた。そして、自分の知っていることは戦争についてほんの一部でしかないことに気づいた。

また、同時に自分の目で実際に見ることの大切さに気付いた。自分が実際に行ったことは経験になり、感じた想いは一生忘れることはないと思う。これからは、たくさん自分で調べて、実際に目で見て・感じて、色々な経験をして、色々な角度から物事を見て、偏りのない知識を身に付けた人になりたいと思う。

私の平和宣言

## 思いを伝える

3日間の広島派遣で私は、原爆・戦争についてのたくさんの資料を目にしました。平和記念式典に参列することもできました。貴重な体験をした新たな発見もたくさんありました。

だから私は、自分が目にしたことやものをいろんな人に伝え、届けたいと思いました。自分が見て何を感じたか。また自分の想いをほかの人に伝え、原爆・戦争について興味を持ってもらいたい。時代の流れで広島・長崎に起こったことが薄れていかにないように、たくさんの人に届けて、すべての人が平和の大切さを知っている世の中にしていきたいです。



## 1 学習テーマ ヒロシマから繋ぐ平和のバトン～核とわたしたち～

唯一の戦争被爆国である日本、そしてその被爆地である広島で被爆の実態や核の恐ろしさについて考え、自分たちが平和のバトンをつないでいかなければならないという使命感を覚えた。

今回このテーマで学習を進める中で、広島で起こった惨状や核の悲惨さを知り、平和の願いを込めた“平和のバトン”として繋いでいけるのは僕たち日本人にしかできないことであり、またその責任があると思った。同時に、平和への思いの継承法を考えるほか、被爆の実相に直に触れることができるなど、深い学びを得ることができた。



広島焼け野原に立つ2人

## 2 感じたこと、学んだこと “Hibakusha”が何を意味するか

この事業の中で最も心に残ったのが、平和記念式典でグテーレス国連事務総長があいさつ文を読むなかで何度か登場した“Hibakusha”という言葉。各国から人が集まる中で読まれたということは世界中どこで言っても通じる世界共通の言葉ということだろう。

僕は「被爆者」という言葉が日本語読みで世界共通の言葉になっていることを知らなかった。日本語読みで世界共通に通じる言葉には例えば“Samurai”や“Ninja”などがある。これらに共通することは「他になく、特別」なものであることだ。「被爆者」という言葉、訳そうと思えば英語で訳すこともできただろう。でもそれがされず日本語読みの世界共通に通じる言葉になったことは、それだけ特別で大切にすべきものであることを表していると思う。

唯一の戦争被爆国に生まれた日本人である僕たちは、この言葉に込められた思いやその意味を強く受け止めなければならないと思った。



## 私の平和宣言 平和への思いを受け継ぎ、本当の強さをもつ

平和記念式典でのこども代表の平和への誓いで、こんな一文が出てきました。

「本当の強さとは、違いを認め、相手を受け入れること、思いやりの心を持ち、相手を理解しようとすることです。本当の強さをもてば、戦争は起こらないはずです」

この言葉が今でも耳に残っています。違いを認める、相手を受け入れるなどのことは日常生活で人と接するときだってできます。

広島で学んだ平和への願いや思いを周りに伝え、次世代に受け継ぐことが自分たちの使命であると感じ、また日頃の生活の中から「本当の強さ」をもって少しでも平和な世につなげたいと思いこのような宣言にしました。



## 1 学習テーマ ヒロシマから繋ぐ平和のバトン～核とわたしたち～

広島が原爆を受けた被害はとて大きく、たくさんの人の命が失われて、様々な人がつらく悲しい思いをしていたということを今回の学習で学ぶことができました。

今回、私たちは、広島平和学習中学生派遣団で杉並区代表として広島に行ってきた。そこで学んだことを知って終わりにするのではなく、今まだ知らない小さな子、後世に伝えていく事が大事だと日本各地の子(ヒロシマ青少年平和の集い)と話し合っただけで学ぶことができました。



原爆死没者慰霊碑と原爆ドーム

また、被爆された方は、すでに年配の方が多くなってきており、被爆者の話を聞ける機会も少なくなってきています。今以上に、広島に原爆について知っている人を増やして、被爆の事実を後世に伝えて行かなければならないと学びました。

テーマにもあるように、広島で原爆が落とされたことをまず私たちが知る、そして伝える、そしてまた知った人たちが他の人に伝える、その繰り返しでバトンのようにして広島のことを多くの人につないで、事実の記憶と、ヒロシマの思いを絶やさないことを大切にしなければならないと強く思いました。

## 2 感じたこと、学んだこと 私が見た広島

平和記念式典に参加して、様々な人が様々な思い(想い)でこの式典に望んでいるということを感じることができました。また、市長や総理大臣、国際連合事務総長、式典に参加しているたくさんの人が核兵器の廃絶を願っているとわかりました。

平和記念資料館では、本物の原爆の被害や核についてしっかりと学ぶことができました。館内の空気がとても重く、一人一人がきちんと原爆やその被害について目を背けずに向き合っていることを肌で感じることもできました。

私は中1の頃まであまり広島や原爆について知らなくて、すごく興味があるわけでもありませんでした。でも、今回の事業に参加して、命の尊さや被爆した実態や悲惨さ、原爆や核兵器の怖さをきちんと学ぶことができました。でもこれだけではだめだと思うので、学校の人たちや身近な人から伝えていきたいと思っています。



## 私の平和宣言 毎日を大切に笑顔の花を咲かせる

今の平和である日常が当たり前ではないということを今回の広島平和学習中学生派遣事業で学んだから。

笑顔は幸せの証であり、みんなが笑顔になれば、喧嘩や争いが起こらないはずだから。

まずは自分から笑顔の花を咲かせていきます。そして、相手の笑顔の花も咲かせていけるよう行動していきます。



## 1 学習テーマ ヒロシマから繋ぐ平和のバトン～核とわたしたち～

私たちE班の学習テーマ、「ヒロシマから繋ぐ平和のバトン」には広島平和学習で聴かせていただいた被爆者の方々の思いや戦争の悲惨さを周りの人たちに話すことで思いを繋いでいきたいという思いが込められています。

私は実際に被爆者の方のお話を聴いて、こんなにも悲惨な戦争を二度と繰り返してはいけないと思いました。広島平和学習で私は戦争や核兵器の恐ろしさを学びました。これから、この学習を通して学んだことを家族や友人などの周りの人に話して被爆者の方々の思いをつないでいきたいと思います。



おりづるタワーで折った折り鶴

## 2 感じたこと、学んだこと ヒロシマに行って感じたこと

私はこの広島平和学習を通して命の尊さ、平和の大切さを身に沁みて感じました。平和記念資料館で被爆者の方々の遺品や被爆の惨状を示す写真、資料を見て、一瞬にしてそこに住んでいた人々やその思い出を消し去ってしまった原子爆弾の恐ろしさを知りました。また今もなお、放射線による被害で苦しんでいる被爆者の方々はたくさんいます。

私は、こんなにも人々の体と心に深い傷をつけた原子爆弾、核兵器がいまだにこの世界にたくさん残っているという事実を恐怖を抱きました。これから先の平和な未来のためにも、私たちは「人間と核兵器は共存できない」ということを訴えて一日も早くこの世界から核兵器をなくせたいです。

私はこの広島平和学習で、当たり前で平和な日常を送ることができている今現在がどれだけ貴重で貴重なことなのかを理解しました。今はまだ難しいことなのかもしれないけれど、いつか戦争も核兵器もなくなって、世界中の人々が平和な日常を送れるようになることを願っています。



## 私の平和宣言 周りの人に伝える

私が平和宣言を「周りの人に伝える」にした理由は、広島に行って知った被爆者の方々の思いや戦争の悲惨さを家族や友人、周りの人に伝えることが私にできる戦争のない平和な未来への一歩だと思うからです。

今、被爆者や戦争経験者の方々の平均年齢は84歳を超え、私たちは直接戦争体験を聴くことのできる最後の世代です。これから先の戦争を知らない世代の人たちに戦争を経験された方々の思いや平和の尊さを伝えていきたいと思っています。

## 1 学習テーマ ヒロシマから繋ぐ平和のバトン～核とわたしたち～



相生橋から見た原爆ドーム

私は、グループ発表で「被爆者の思い」を担当し、被爆者の山本玲子さんの体験談を聞いて、発表をまとめた。

体験談からきいた実際の原爆は、私がそれまで想像していた被爆の状況よりもっとリアルで、生々しく感じた。また、山本さんの訴えにはすごく共感したし、改めて「核兵器は絶対に使ってはいけないものなんだ」と気づかされた。

また、グループ発表の時の班のメンバーとの話し合いのなかで、「私たちは平和のために何ができるのか」を、お互いに意見を出しながら議論した。

これらの議論を通じて、自分なりの平和に対する考え方を持つだけでなく、自分は何をできるのか？という問いについて真剣に向き合うことができた。

## 2 感じたこと、学んだこと 平和への思い

それまで私は、教科書や本に載っているものでしか戦争のことを知ることが出来ず、あまり平和について深く考えたこともなかった。

しかし、今回の平和派遣事業の中で、事前学習会で平和について話し合うこと、実際に広島に行って被爆者の体験談を聞いたり、資料館を訪れたりすることを通して、原爆の恐ろしさを強く感じ、平和への思いがさらに強くなった。



## 私の平和宣言 ヒロシマの記憶を忘れず、わたしたちから広めていく！

ビデオメッセージで、被爆者たちは、「核兵器と人間は共存できない」と訴えていました。しかし、多くの方が核兵器廃絶を願い、訴えているのに、世界にはまだ約一万三千発の核兵器が存在しています。

また、現在は被爆者の高齢化によって、被爆の体験を語ることができる人が少なくなってきているので私たちの世代が、直で話を聞ける最後の世代になるかもしれません。

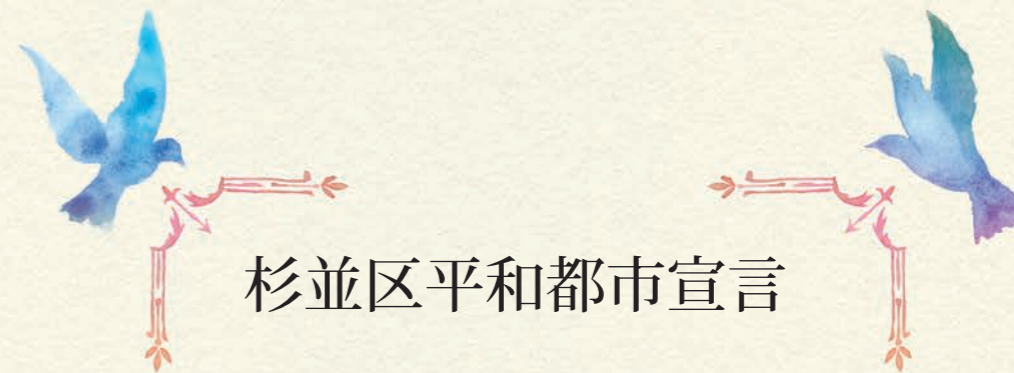
だからこそ、私たちが被爆のことを自分から知ろうとすること、そして、知るだけでなく、私たちが広めていくことが、核兵器をゼロにするという目標において重要なのではないかと思います。







私の平和宣言

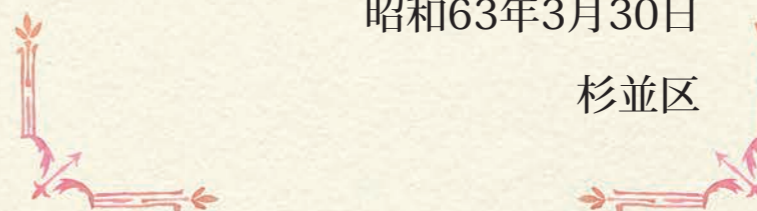


# 杉並区平和都市宣言

世界の恒久平和は、  
人類共通の願いである。  
いま、私たちの手にある  
平和ゆえの幸せを永遠に希求し、  
次の世代に伝えよう。  
ここに杉並区は、  
核兵器のなくなることを願い、  
平和都市を宣言する。

昭和63年3月30日

杉並区



広島平和学習中学生派遣事業は「杉並区次世代育成基金」を活用しています。  
子どもたちが将来の夢に向かって健やかに成長できるよう基金の応援をお願いします。



令和4年度  
広島平和学習中学生派遣事業報告書

令和4(2022)年12月発行

編集・発行


杉並区 区民生活部管理課 平和事業担当  
〒166-8570 杉並区阿佐谷南一丁目15番1号  
電話(03)3312-2111(代表)

印刷:ash design

登録印刷物番号

04-0085



 杉並区